伍桃

NIIGATA UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
AN ALUMNI BULLETIN
GOTOH

新潟医療福祉大学同窓会誌
No.5 2009.3.10

巻頭言
平成21年春　卒業する皆様へ
―リーダーシップと桃太郎モニュメント―
学長　髙橋 榮明
同窓会長挨拶
同窓会長　齊藤 公二
副学長・学部長メッセージ
学科長メッセージ
退任教員メッセージ
新任教員メッセージ
首都圏支部総会開催報告
新卒業生メッセージ
同窓会新役員紹介
卒業生の近況
在学生による先輩訪問日記
卒業生の職場紹介
卒業生の就職状況
大学の近況
語学留学体験報告
学友会便り
強化指定クラブ活動報告
ボランティア団体活動報告
各学科からのお知らせ
平成20年度の主な行事

義肢装具自立支援学科の月城慶一准教授が、日本人技術者のひとりとして世界最大規模の義足メーカーであるオットーボック社（本社ドイツ）が北京パラリンピックで行ったリペアサービス活動に参加しました。
各種競技で使用される義肢装具・車いすなどの福祉用具の調整および修理を行っている様子。

巻頭言

平成21年春　卒業する皆様へ
―リーダーシップと桃太郎モニュメント―

新潟医療福祉大学　学長　髙橋 榮明

皆さんは平成17年の春、入学しこの度４年間一緒に勉強して新潟医療福祉大学を卒業します。皆さんは入学時にそれぞれ私に「私の夢」を作文で聞かせてくれました。在学中の夢が実現したことを期待しております。そして、私たちは対象者・患者・高齢者、いろいろな方のQOLをサポートする「QOLサポーター」となることを目指してきました。

本学の入り口、図書館の前にある桃太郎のモニュメントについて話したいと思います。昔話の桃太郎はおじいさん・おばあさんを大切にし、犬や猿やキジのチームをまとめ、リーダーシップを発揮して鬼退治をするとの内容です。それはまさに超高齢社会のわが国で保健医療福祉の諸問題に、チームをまとめてリーダーとして活躍して解決することです。桃太郎の新解釈はこのようにリーダーシップを発揮することを示し、本学のモニュメントとしてふさわしいものだと思います。

超高齢社会のわが国では、対象者のニーズを良く把握し、その課題解決にチームワークで当たる重要性が、よく認識されてきました。人の一生の小児期から、壮年期を経て、老年期までとすると、幅広く「保健医療福祉連携」と考えることが今必要だと思っています。それは健康を自ら管理し、病気に掛からないように予防から始まり、医療と福祉、そして出来るだけ長く自立して地域で生活できることが大切となってきました。皆さんはその「QOLサポーター」です。

予防、医療・リハビリテーション、あるいは地域医療と福祉におけるサービスとケアを提供する場合、多職種協働でチームを編成して対応します。自分の専門の部分ではチームのリーダーとなって、他の場合ではメンバーとして活躍して頂きたいと思います。リーダーは対象者が何を望んでいるかよく知り、メンバーの意見を聞いて、多様なニーズを認識し、調整して、対応を実践することです。チームのメンバーとして活動する場合は、自分がどのように対象者のためにチームに貢献できるかです。このような認識、調整、実践という新しい能力をつくり、発揮して頂きたい。

皆さんが、将来、社会で、桃太郎のように、いろいろな場面で、リーダーとして、新しい能力を発揮して活躍することを心から期待しています。

同窓会長挨拶

同窓会長　齊藤 公二

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、新潟医療福祉大学同窓会の正会員となりましたことを、心よりお喜び申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

現場にて、すでにご活躍の会員の皆様におきましては、いかがお過ごしでしょうか。

新潟医療福祉大学は、第５期生、また、大学院修了生第３期生を輩出し、６年目のスタートを切ろうとしています。大学は、私たち１期生が入学した頃とは、全くその装いを変えております。学科の数が増える、学生の数が増えるということで、学内の施設はもちろん、雰囲気も大分変ってきました。学内にいる学生や先生方、職員の方々の顔や名前がわからなくなってしまうのは少し寂しい気もしますが、それ以上に良い面があることでしょう。今後の母校のさらなる発展に、本会も力になれるようにと考えております。

前号の伍桃だよりでもお話しさせていただきましたが、３月より本会のホームページが開設いたしました。まだまだご覧になっていない方もいるかと思いますが、ぜひ一度アクセスしてみてください。「同窓生は今！」では、会員の皆様が働いている職場のことや、近況報告をしていただくページです。また、「こころに届くいい話」では、会員の皆様や先生方に、心が温まるような、医療や福祉に携わる私たちだからこそ、感じることのできる体験談を教えていただくページになっています。

今後、コンテンツの内容等は、皆様からのご意見を参考にしながら徐々に変えていきたいと思っております。ぜひ一度ご覧になっていただき、ご意見・ご感想等頂ければ幸いです。

大学の規模が拡大し、学生数が増えるにつれ、本会の会員数も増えていきます。その中で重要な役割を果たしていくのが、この度立ち上げたホームページであると考えます。遠隔地での会員相互の連携を密に図るための媒体として、これからより充実したものにしていきたいと考えております。

最後に、今年度も同窓会総会を10月末、首都圏支部総会11月末に予定しております。ホームページ上での交流だけでなく、実際に懐かしい友人に会いに来ませんか？　役員一同お待ちしております。

No.5 2009.3.10

副学長・学部長メッセージ

副学長メッセージ

副学長／社会福祉学部長　米林 喜男

第５期生の皆さんご卒業おめでとう。

皆さんにはぜひ教養豊かな社会人になってほしいと願っています。教養の語源はご存知のように、ラテン語をルーツとする英語のカルチャア（Culture）ですが、このカルチャアを明治の先人達は、個人にあてはめた場合に教養という訳語を当て、社会にあてはめた場合に文化という訳語に移したといわれております。いずれにしましても、カルチャアは農業と深く結びついている言葉です。すなわち大地を耕し、種を蒔いたり、苗を植えたりして、作物や果樹や花を大切に守り育てて、その植物が遂に咲かせた花、遂に結ばせた実りが、カルチャアなのです。これを人間に置き換えてみるならば、この世に誕生してから、両親や友人をはじめとする多くの人々に助けられながら成長し、遂に今咲かせている花、今結ばせている実りが、その人間の教養なのです。いいかえるならば、その人間が今この世に存在することによって、どの位周囲の人々や環境が、豊かに、明るく、美しく変化するか、その程度がその人の教養の程度なのです。日本には品性とか品格といった言葉がありますが、これこそ教養にほかならないのです。５期生の皆さんがこれから社会に出た時、こうした品性や品格がどのくらいそなわっているかということが、学生時代以上に求められることになると思います。そのためには、たゆまない知識の習得とその知識をもとに智恵を働かせ何事にも的確な判断ができるよう、これからも努力しつづけてほしいと願っています。

社会人１年生おめでとう

医療技術学部長／義肢装具自立支援学科長　江原 義弘

私は大学時代に陸上部に所属していたのですが、入部を申し込むために最初に４年生の先輩にあった時はびっくりしてしまいました。同級生は高校を出たばかりで子供っぽいのに、４年生はまるで大人でおじさんおじさんしていたのです。４年間でこうも成長するのかと思いました。ですから、皆さん卒業生も新入生から見ると、しっかりとした大人に見えるのですし、見えるだけでなく本当にもう一人前の社会人なのです。今までは教えてもらうばかりだったのですが、これからはそれを社会に恩返しするときがきたのです。人生は死ぬまで勉強といえば確かにそのとおりなのですが、だからといっていつまでも学生気分ではダメです。「おはようございます」「ありがとうございます」がしっかりと言えるという基本編から、医療技術のプロとして仕事ができるという応用編まで実践できるときが来たのです。社会にでたら自分のアピールポイントに磨きをかけてください。さわやかスマイル、ずば抜けて親切、フットワークの良さ、早めの報告などなど何でも結構。また卒業しても大学機能は最大限に活用ください。教員・同窓生とのネットワーク、新しい情報、図書館、研修会・勉強会の会場として、さらには修士課程、博士課程、海外との連携の拠点として、憩いの場として（？）。皆さんの力が発揮できるよう応援しています。

専門職業人として豊かな人間性と感性をみがき、社会の要請に貢献する実践力・判断力・探求心で明日を拓く

健康科学部長　渋谷 優子

卒業生の皆様、心からお慶び申し上げます。今年度は初めて健康スポーツ学科の卒業生を送り出すこととなりうれしく思います。

卒業は終了ではなく、これまでの４年間の学んだ成果を基盤として新たな進路に繋げる門出であり、今正に端緒に着いたのだと言えるでしょう。

我が国の保健医療を取り巻く環境の変化や厳しい状況に対応した実践能力や現実に必要な知識、技術の修得が要求され、一方多様化する国民の保健医療サービスへの需要に専門職が対応していくためには基礎教育を基盤とし、現場で実践を体験することで感性や人間性に触れ学びを深め、その糧を明日に活かせるよう心がける取り組みが重要になります。

専門職業人として専門的業務や役割において安心・安楽を配慮した質向上を図る実践を追求していく取り組みが期待されています。

そのためには人々のニーズに応えるように専門分野の業務や機能に習熟できるよう常に心がけ業務の質向上や役割が拡大することに貢献できるように励むことが大切です。

更に生涯を通して働き続けられる専門職人として学び、実践、判断力、探求心の統合した能力を維持発展して明日を拓けるよう一層望まれます。

学科長メッセージ

卒業生にむけて

理学療法学科長　大西 秀明

理学療法学科卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。国家試験も終了し、後は結果を待つばかりとなりました。４年間、様々なことがあったかと思いますが、この４月からは理学療法士として様々な病院・施設で活躍されることと思います。社会に出ますと、いろいろな試練が待ち受けています。予期せぬ出来事もあります。そのような場合、環境や他人を批判することは非常に簡単ですが、批判してもまず改善することはありません。どのように改善しないといけないのか、常に建設的な意見を持ち、自ら積極的に行動を起こしてください。どのような環境においても、発展して行くことができるか否かは皆さん次第です。自由な発想とともに、自ら能動的に行動を起こし、楽しく仕事をされることを期待しています。

毎年卒業生にお願いしていることがあります。それは、数年後には皆さんも臨床実習の指導者になって頂きたいということです。是非、数年後には後輩達の臨床実習の指導にあたり、そして、優しく臨床現場の楽しさを伝授してやってください。今後の皆さんの健康と益々のご活躍を祈願いたします。

卒業生の皆さんへ

作業療法学科長　大山 峰生

作業療法学科５期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日、大学卒業という人生の中の一つの節目に立ち、皆さんはきっと大学時代に経験したことを振り返っていることと思います。

大学生活では、大学祭で協力して餅屋を出店したこと、飲み会で皆と騒いだこと、また厳しい定期試験等、楽しかったこと、辛かったこと、多くのことを体験したことと思います。特に今年度の国家試験対策においては、合格率が低下する？という情報の中で、例年に無くプレッシャーを感じて勉強に励み、模試の点数がなかなか上がらない時には焦りと苦しみを感じ、また想像以上に点数がとれた時には安心と充実感を得、その都度いろいろなことを考えたことと思います。その中で、若い故に感受性が高い皆さんは、多くのことを吸収したのではないでしょうか。例えそれが相当辛いものであったとしても、そこで得た経験は確かに貴重なものであり、必ず将来に役立ち、夢を実現させるものと確信しております。“Yes, we can!! チガウカッ！”。

“今日という日は残りの人生の第一歩である”という言葉があります。今日という卒業式の日を境に、これから卒業生の皆さんは、社会に出て、慣れない環境での生活が始まります。荒波にもまれることもあろうかと思いますが、大学生活での経験を活かし、御健勝にてますますご活躍されますことを心から願っております。またお時間のある時には、是非大学にお立ち寄りくださり、元気なお顔を見せてください。

５期生の皆さんへのメッセージ

言語聴覚学科長　渋谷 直樹

５期生が卒業する時となりました。年年歳歳卒業生を送り出すことに過度の緊張が伴わなくなったような気がしますが、連綿と続くこの厳粛な卒業という節目を、改めて新鮮な感慨をもって迎えたいと思っています。

本学が開学して８年を満たす月日が流れたことになります。その中で皆さんが過ごした４年間というそれぞれの時間は凝縮した一つの宝石に見えてきます。卒業アルバムに散りばめられているその輝きは、折に触れて皆さんを元気付けてくれることと思います。言い古されてはいますが、これからが社会人としてまた専門職として成長していく大切な段階です。しっかりと新しい舞台を踏めますよう願っています。また、これからの皆さんを支えてくれる新しい出会いに恵まれますようにと祈っています。ご卒業おめでとう。

卒業生の皆さんへ

健康栄養学科長　斎藤 トシ子

５期生の皆様、卒業おめでとうございます。

この４年間、私たち教員は皆さんから沢山のことを学習させていただきましたが、私たち教員は、皆に「生きていくための糧」をどれだけ与えることができたでしょうか？今皆さんはようやく社会人としてのスタート地点に立ち、希望に胸が膨らんでいることと思いますが、長い人生の中には苦難も待ち受けていることと思います。そんな時には、人と比較をしない、歩くスピードを緩め自分のペースを大切にする、道草をしてみる、本を読む等すると、解決策が見出せるかもしれません。江戸の賢者の知恵「江戸しぐさ」、「良寛の戒語」等（下記のサイトに概要がのっています）も、人間関係の構築に役立つかもしれません。

・http://www1.seaple.icc.ne.jp/t-hirose/text/edoshigusa/edosshigusa.html
・http://www1.seaple.icc.ne.jp/t-hirose/text/edoshigusa/ryokan.html

仕事は続けてこそ天職（天から授かった職業、また、その人の天性に最も合った職業）になるようですので、途中で諦めず、人生を楽しみながらプロフェッショナルとしての任務を果たしていくことを期待しています。何十年か先に、成長した皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

卒業生の皆さんへ

看護学科長　塚本 康子

看護学科が開設されて４年目、今年は完成年度を迎え、全学年がそろって学生数も増えます。学生達は初めての体験に戸惑いながらも、夜遅くまで学習に取り組んでいるのをよく見かけます。１期生は徐々に先輩然としてきて頼もしい存在になりました。

看護学科では、基礎看護学実習が終了した後、３年生後期から領域別看護学の臨地実習が開始します。実習施設は総合病院、リハビリテーション病院、がんセンター、老人保健施設、地域包括支援センター、精神科専門病院、保健所、市役所、訪問看護ステーション、保育園など多岐にわたっています。臨地実習は単位数も多く、看護学科カリキュラムのなかで質・量ともに重要な位置を占めています。

４年生前期には成人看護学実習と地域看護学実習が、さらにその後には助産学実習と養護教員の教育実習が待っています。実習中、頼りになるのは優しくて頼もしい先輩達ですが、残念なことに看護学科にはまだ卒業生がいません。そこで、卒業生の皆様にお願いがあります。同窓生の皆様、不安そうにしている学生を見かけましたら声をかけていただけますでしょうか。ご支援いただければ幸いです。来年の春には看護学科の第１期生が卒業していきます。先に社会に巣立っていった同窓の皆様、暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。

卒業を祝して

健康スポーツ学科長　和唐 正勝

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

「百年に一度」という表現もされる厳しい経済状況の中で、新しい人生の船出を迎えることとなりました。世の中が暗くなるほど、保健・医療・福祉の仕事の大切さは輝きを増してきます。社会人一年生としての若さとバイタリティで、その期待に応えられるよう日々努力して専門的な力量を高め、様々な分野で人々の「生活の質」の向上を目指してがんばってください。

５期生の卒業生の中で、健康スポーツ学科は、今回、初めて卒業生を送り出すことになりました。健康スポーツ学科の卒業生は、大学で学んだ健康・スポーツについての専門的知識・技能と共に、運動やスポーツを通して培った人間関係やチャレンジ精神を活かし、第１期生であるという自覚と誇りを持って、自分の夢の実現に向けて着実に歩んでいってください。社会に出てさらに大きく成長した皆さんに、またお会いできることを楽しみにしています。

卒業生の皆さんのご活躍を、これから続く後輩と共に祈念しております。

５期生の皆さんへのメッセージ

社会福祉学科長　丸田 秋男

５期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

社会福祉学科では、４期生から卒業後の進路に変化が見られはじめ、５期生では保健・医療・福祉の専門分野（以下「福祉分野」という。）を選択しない学生が全体の３割を占めています。

この背景には、一般企業等で早期内定を得たいという想いや、福祉分野における雇用条件等への不安などが作用していると思われます。

特に、福祉分野における雇用条件等の社会的不利や不確実さは、皆さんにとっての選択肢を狭める大きな要因になっているといえます。

このような社会情勢の下で、一人ひとりが自らの価値観と置かれた環境等に照らし合わせながら、最善若しくは次善の選択をされたことに心から敬意を表します。

さて、５期生の皆さんへのメッセージですが、第一に、自分が選択した仕事の社会的価値を明確化し、その価値をクライアントや顧客と共有できるように努めてください。

第二に、クライアントや顧客との関係性においては、フェイス･トゥ･フェイスによる直接的な人間関係を基本にし、常に「○○さんとわたし」という関係を築けるように努めてください。

第三に、クライアントや顧客の主体性を尊重し、実際の仕事の場面で、常に「ありがとうございます」という感謝の心を表現できるように努めてください。

この三つは、年末に大腸ガンの摘出手術で緊急入院した際に、患者としての体験を通してあらためて学んだことです。

皆さんの卒業後の進路が福祉分野であれ、一般企業等のビジネスの分野であれ、これからの社会において自己確実性を高めていくためには、自らの仕事に社会的価値を付加し、その価値をクライアントや顧客と共有できるかどうかにかかっていると思います。

どうか、本学の社会福祉学科で学んだことを誇りにするとともに、私からのメッセージを一つの指針として存分にご活躍ください。

社会福祉学科では、皆さんの卒後支援の体制づくりに努め、継続的に支援していきますので、密接に連絡を取り合いましょう。

退任教員メッセージ

さようなら島見町

理学療法学科　教授　高木 昭輝

第５期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

開校時に大学に来た折には島見町は一面の銀世界でした。30cmくらいの積雪でしたでしょうか。

高橋学長からは「新潟市内の積雪はほとんどありませんから（安心して来てください）」と言われておりましたので大変に驚きました。

その後、田んぼの周囲には土筆が鎌でかるほど生えていていました。沢山摘んで帰り、卵とじにして美味しく戴きました。新潟の人は土筆を食べないことを聞き、これにも驚きました。皇居内だって土筆摘みはするのですから。

また、アスファルトの道路を雄の雉がゆうゆうと歩いているのを時々見かけ、子供の頃伯父と雉射ちに行ったことを思い出しました。

大学を去ることは残念に思いますが、皆様のご活躍をお祈りいたします。

皆様お元気でお過ごしください。そして、さようなら島見町。

卒業生の皆様へ

作業療法学科　准教授　岡村 太郎

卒業生の皆様、私、岡村は当大学に就任してから８年経過いたしました。しかしながら、皆様のお役に立てず申し訳ないと思いつつ、今年３月いっぱいで退任し、千葉県立保健医療大学に移ります。下記にある言葉は、ニューヨーク大学付属ラスク・リハビリテーション研究所のロビーに掲げてあるという詩です。卒業生の皆様へは、この大学での最終授業のひとつとして、ここに掲載させていただき、御挨拶に代えさせてください。

＜課題：この詩を読む対象となられる方々を想像しながら鑑賞してください。＞

「悩める人々への銘」

大きなことを成し遂げる為に、強さを求めたのに、
謙遜を学ぶようにと弱さを授かった。
偉大なことをできるようにと健康を求めたのに、
より良きことをするようにと病気を賜った。
幸せになろうとして、富を求めたのに、
賢明であるようにと貧困を授かった。
世に人々の賞賛を得ようと成功を求めたのに、
得意にならないようにと失敗を授かった。
人生を楽しむために、あらゆるものを求めたのに、
あらゆるものを慈しむために人生を賜った。
求めたものは一つとして与えられなかったが、
願いは全て聞き届けられた。
私は、もっとも豊かに祝福されたのだ。

作者不詳（出典：加藤諦三著『無名兵士の言葉』）

卒業生の皆様

健康栄養学科　特任教授　荒井 冨佐子

その後いかがお過ごしでしょうか。大学が開学して以来８年の月日が流れました。大学もご存知のように、校舎も学生数も増え、年ごとに中身も充実してきました。卒業生お一人おひとりの努力の賜物だと思います。

ところで、この３月をもって私も大学を退職することになりました。いろいろな思い出をたくさんいただきました。本当にありがとう。心から感謝しています。

８年もの間、私は毎週、福島から新潟へ車で通いました。会津若松から少し先に磐梯町がありますが、その道端に「ならぬものはならぬ」と記した大きな立て札があります。お聞きになったことがありますか。この言葉は明治時代、会津藩の子弟を教育する折に使われたといわれています。今の時代にも通用する力強い言葉だと思います。何かの機会に思い出していただければうれしいです。

卒業生の皆様へ

健康栄養学科　特任教授　村山 篤子

大学の完成年度までのつもりで新潟に赴任したのですが、１期生はもう立派な社会人となって活躍中というのに、いろいろの事情もあってこの３月にやっと退職することになりました。“こわい、厳しい”というあまりかんばしくない評判を耳にしておりますので、‘またか’と思われるかもしれませんが、最後に、70年余の貴重な経験によって得た一言、目を通していただければ幸いです。

アフター５、または６、７（あなたの職場によって異なるでしょうが）を大切にして、自分自身を磨くことに専念してください。まずは、何事にも興味と関心をもって。これをおろそかにして「仕事一筋に生きる」と自負し邁進しすぎると、あなたは麦わらのようなスカスカの中身のない人間になって、本当の指導者として社会に貢献しなければならないとき、味もそっけもないつまらぬ物体（？）になって誰もついてきてくれないと思うよ。――これ以上は紙面がないようで。では、みなさんのご健闘を心から祈っています。

充実した人生を送ってほしい！

健康スポーツ学科　教授　高橋 一榮

卒業を迎えた４年生のみなさんに一言お祝いを申し上げます。

健康スポーツ学科４年生は、１期生としての卒業を迎えました。私は１年生から関わってきましたが、モデルとしての上級生のいない状況のなか、ベストを尽してくれたと感謝しています。私のゼミには10名の４年生がおりましたが、卒業論文への取り組みは、私にとって生涯忘れ得ぬ思い出となりました。各自の卒論制作作業のあと、全員集合でプチ合宿を始めたのが12月初めでした。それ以来、卒論提出までに、10回およそ70時間を費やしての合宿で、全員無事卒論を完成させることができました。一人一人異口同音に「充実した時間だった！」と語っていた姿が印象的でした。社会にでて、さらに充実した人生を送ってほしいと願っています。

ゼミ生以外の健康スポーツ学科の卒業生とも思い出が多くあります。専門スキー然り、野外活動然り。それぞれ豊かで充実した人生を過ごしてほしいと願っています。

健康スポーツ学科以外の全ての学科の卒業生とも、教養体育で楽しく活動することができました。ありがとうございました。

卒業生のみなさんのこれからの人生が、より充実したものになるよう祈っています。お元気で！

さあ潮は満ちた、船出だ！

健康スポーツ学科　教授　山地 啓司

ご卒業おめでとうございます。

小学校からの16年間の長い教育期間を終え、巣立って行く卒業生の皆様の前途に幸多かれとお祈りします。

現在の日本は米国のサブプライム問題に端を発する、未曾有な経済的不況に直面しています。1972年にマサチューセッツ工科大学グループによって発刊された『成長の限界』の予言が的中した感さえあります。このような世界的大不況の中へ船出する君達にとって、今はこれまで学んできた力を発揮する又とないチャンスです。現代の日本社会は、全能的なスーパーマンは育ちにくい環境にあります。どんな職に就こうが、高いプライドとそれに見合った卓越した技能を持った職業人になってもらいたいと思います。そのためには、ただ物事を知るだけでなく、それが好きになり、それを楽しむ心境になることが大切です。勿論、そのためには並外れた努力が必要になります。『努力論』の著者、幸田露伴は言います。

「努力を努力していると感じるよりは、努力を忘れて努力することが大切だ」、と。

さあ船出の時だ。希望を胸に、元気よく旅立とう！

皆さんのご活躍をお祈りします。

ご卒業おめでとうございます

社会福祉学科　教授　村上 信

５回目の卒業生を送る春がやってきました。風はまだ冷たくても周りには光があふれはじめて、１年のうちで一番「希望」を感じる時です。そんな時期に今年もこの大学を巣立っていく皆さんを見守ることができることは本当に嬉しいことです。

皆さんを待っている社会は大きく変化する時代を迎えています。皆さんもこの時代をどのように生きていこうかと真剣に考え続けていることと思います。不安な気持ちを感じずにはいられないかも知れません。しかし、もはや後戻りすることはできません。卒業証書を胸に抱えて、皆さんは社会人としてこの大学を卒業していきます。わたしはその後ろ姿へ向かって精一杯の拍手を送ることしかできません。

しかし、わたしは心配していません。皆さんがこの大学でこれからの社会を支えるQOLサポーターになるために熱心に「学び・考え・行動した」ことを知っているからです。また4年間の大学生活で結んだ交友関係は皆さんの生活を豊かなものにしてくれると信じています。皆さんは激しく変化する社会の中で、しっかり生きていく知恵と自信を得て、新たな世界に向かって歩み始めたのですから。

どうか元気に前向きに生きて欲しいと思います。いつかどこかでまた会いましょう。

No.5 2009.3.10

新任教員メッセージ

第5期卒業生の皆様へ
ー皆さんのこれからと大学で身につけたものー

言語聴覚学科　准教授　吉岡 豊

第５期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんに一つのメッセージをということなので、メッセージをお贈りします。

皆さんは「MASTERキートン（原作：勝浦北星、画：浦沢直樹）」という漫画をご存じでしょうか。漫画の話とはレベルが低いって？、まあ最後までお読み下さい。この漫画は浦沢氏の漫画の中で一番人気がある作のようです（この他には「YAWARAちゃん」、「MONSTER」）。他の作品については全く知らないのですが、この漫画は好きで全巻読みました。主人公は平賀キートン太一（日系英国人）、考古学者でありながら元英国陸軍SAS（特殊部隊）曹長、現職は保険会社の調査員かつ大学非常勤講師（MASTERは修士のことか、あるいは教官・教師という意味か？）と多彩な経歴の持ち主です。保険調査業務は将来発掘を行う資金を蓄えるためにしているようです。漫画では軍隊で身につけたサバイバル技術を駆使して、危険な保険調査業務を遂行していくという展開です。原作が作成された頃の時事問題も題材にして、その中に歴史や考古学の話がちりばめられており、読者の興味をそそりますが、素晴らしい言葉もたくさんあります。主人公は、考古学に専念したいのに保険調査業務に時間を取られて研究ができない。そのようなとき彼は恩師の言葉を思い出します。

「人間その気になればどこでも研究できる」

「信念を持って行動せよ。そうすればおのずと結果はついてくる」

「人はなぜ学び続けるのか。大臣になるために勉強するのではない。それは人間の使命だからです」

等々です。多くの卒業生は臨床家あるいは専門職、会社員として働かれると思います。この数年間は仕事に慣れるため忙しくなることでしょう。しかし、そんな忙しさの中にあっても探求心と信念を持ち続けて下さい。あまりに忙しすぎるのも問題ですが、多少忙しい方が時間の大切さがわかり探求心も芽生えるものです。大学で皆さんが身につけたものは専門知識だけではなく、「目標設定能力」や「継続学習能力」もあったはずです。これらの能力は卒業研究などを通して身につけたものです。そしてこれらの能力が大学に在籍したという証だと信じています。

卒業生の皆さん、自分の力に自信をもって一歩ずつ歩み始めて下さい。

卒業生の皆様へ

作業療法学科　助教　泉 良太

みなさん卒業おめでとうございます！

４月から大学に赴任し、早いものでもうすぐ１年が経とうとしています。

５期生とは１年という短い間でしたが、実習・就職・国家試験などにかかわらせてもらい、改めて自分の学生時代を思い出し、良い経験・勉強をさせてもらいました。

さて、これからが社会への第一歩となりますが、国家試験取得という目標のある学生時代とは異なり、漠然としたOT道がひろがっています。そのような中で、自分自身を成長させていくためには、目標を作り歩んでいけば良い方向へ行けると思います。患者さん第１主義を大前提として、例えば、臨床1年目はOT業務を身につける、他職種との連携を深める、２年目は学会発表を行う、３年目は学会運営を行う、４年目は実習担当をするというように目標をおおまかに決めておくと良いと思います。私も含め、基本的に人間は自分に対して甘いもので、目標がないと、無為に過ごしてしまうことが多いと思います。また、定期的に「ガツン！」と指導してもらえる先輩の存在も大切です（私の場合には、実習中は鬼のN先生、臨床では世界のN先生にしごかれました）。

とにかく、患者さんを中心に考え、基本を大切にして、真面目に、手を抜かずに歩んでいけば、より良いOTになれると思います。

また、お互いに成長した姿でOT Worldで会いましょう！

卒業生の皆様へ

義肢装具自立支援学科　助教　福田 弘和

卒業生の皆様､お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

義肢装具自立支援学科は８つ目の学科で、第一期生の卒業は２年後となっております。医療系の大学で義肢装具自立支援学科があるのは本学だけであり、私自身、各方面からの期待は大きいものがあると感じております。後輩は先輩の背中を見てどのように行動するべきかを知ることができますが、一期生は自分たちで作っていかなければなりません。国家資格取得や卒業研究、また３年と４年時に２回にわたる臨床実習が控えています。したがってプレッシャーや不安もあると思います。またさらに当学科は進路先として、義肢装具製作会社だけに限らず、一般企業（福祉分野）も視野に入れたカリキュラムになっているため、勉強する範囲も多岐にわたっています。それは一期生の皆様が誰も経験していないことにチャレンジしているということです。しかしそれらを乗り越えた時の喜びは、より一層大きいものではないでしょうか。若輩者ではありますが、そのお手伝いを少しでもさせていただけたらと思っています。皆さまのご健康とますますのご活躍を祈念しております。

社会人としての羽ばたきに期待!

健康スポーツ学科　講師　塙 佐敏

この春、本学を巣立って行く皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの今の気持ちは、卒業を迎えられた喜びと、これから社会へ向かっていく不安とが入り交じった気持ちではないでしょうか。

私はこれまで教育行政や教育現場で多くの若い教師を見てきました。採用時の教師としての力量は同じであるはずなのに、それが年月を経るに従って、大きな差となっていることを感じました。何が違ったのでしょうか？　伸びる教師は、常に児童生徒と向き合い、一緒に悩み考え、教師としての専門的力量を高めていました。また、児童生徒のみならず、地域・保護者や同僚職員からも信頼される人間性の持ち主でした。そしてこのような教師は、仕事が増えても正確で、きちんとこなしていたのです。つまり、「仕事のできる人」は、「専門職としての力」と「人間性としての力」を持った人なのです。職種は違っても、このことは、企業や病院、社会福祉施設等どんな職場でも同じはずです。

経済情勢が厳しくなる今日、社会（職場）は、「仕事のできる人」を求めています。皆さんは、「専門職としての力」と「人間性としての力」を身に付けた立派な社会人として、大きく羽ばたいてくれるものと信じています。活躍を期待しています。

卒業生の皆様へ

社会福祉学科　准教授　寺田 貴美代

ご卒業を迎えられた第５期生の皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。また、第１期から第４期生の卒業生の方々、各方面にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

私はこれまで千葉県内の大学に勤務しており、昨年４月から新潟医療福祉大学へ着任させて頂きました。社会福祉学科の教員として、主に社会学や社会病理学、社会福祉援助技術演習や社会福祉援助技術現場実習等を担当いたしております。

新潟には昨年２月に転居し、ようやく１年目を迎えたばかりです。はじめての新潟での生活に、当初は不安や戸惑いも多かったのですが、本学の教職員の方々や学生の方々をはじめ、多くの皆様から親切にして頂き、現在は、とても楽しく生活しております。そしてこの１年、県内のさまざまな社会福祉関連の機関や施設に、在学生の実習先巡回として訪問させて頂きましたが、それぞれの現場でご活躍なさっている卒業生の方々のお話を耳にいたしました。地域の幅広い分野で、御専門を生かして日々邁進していらっしゃるご様子に、私も大いに励まされております。まだまだ新潟に不慣れですので、卒業生の皆さんからいろいろとお話を伺いたく思っております。大学へお越しの際は、ぜひお声をかけてください。卒業生の皆さんのさらなるご活躍を、心からお祈りいたしております。

首都圏支部総会開催報告

第２回新潟医療福祉大学同窓会首都圏支部総会が平成20年11月24日、新潟医療福祉大学東京キャンパスにて開催されましたので、ご報告させて頂きます。

総会次第として、開会、首都圏支部長あいさつ、同窓会長あいさつ、学長あいさつが順次行われました。

議事としまして、齊藤同窓会長より平成20年10月25日に行われた同窓会総会報告がされました。議題として平成19年度事業報告、平成19年度新潟医療福祉大学同窓会収支決算書報告、平成19年度監査報告、平成20年度事業計画案、平成20年度会計予算案についての報告がされました。

続いての議題として、首都圏支部の事業計画として、同窓会本部の目標に準じて「卒業生のネットワーク化と新潟医療福祉大学と卒業生との生涯パートナーシップの構築」とし、本部に基づき４つの計画をまとめました。

一つ目は、卒業生名簿の一元管理を行うため、本年度中に名簿収集・整理を行い、次年度の始めには５期生の名簿収集と整理を行います。

二つ目として、卒業生コミュニティサイトとして、同窓会ホームページを作成し、公開すると共に、支部紹介ページを掲載する予定です。また、将来的には、SNS（ソーシャル･ネットワーキング･サービス）を用いて卒業生同士の情報交換や大学側との意見収集を行える「オンラインコミュニティー」を構築していきます。

三つ目は、組織の拡大として、支部独自で運営できるよう、支部会則の策定や役員会立ち上げ準備、新支部会開設準備等の計画を予定しています。

四つ目として、交流事業の確立として、OB交流会の開催や同窓生による講演会等事業計画を検討し、同窓生が参加しやすいミクロな集団である、在校時のゼミ単位くらいでの交流事業に予算を付けること等が検討されました。

また、案として、新潟医療福祉大学学友会と連携し、在学生の職場訪問に予算を付け、同窓生の職場訪問を実施し、同窓生ネットワークを構築していくことや、同窓会誌やインターネット媒体によって在学生と同窓会との関わりをつくることも提案されました。

首都圏支部長挨拶

新潟医療福祉大学同窓会首都圏支部長　原 隆祥
（社会福祉学科１期生）

寒さいまだ去らぬ毎日、皆様に於かれましてはますますご清栄のこととご推察申し上げます。

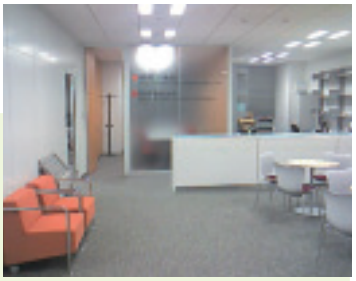
先の平成20年11月24日、新潟医療福祉大学東京キャンパスにて第２回新潟医療福祉大学同窓会首都圏支部総会が開催されました。首都圏支部が創立して早１年が経過したことを感慨深く思います。

同窓会支部の活動としまして、本部との連携はもちろん、本年度より発足した新潟医療福祉大学同窓会支援室と協力しながら、同窓会支部としての基盤を整備し、支部を充実させていきたいと思います。

本年の目標として、交流事業を確立することを掲げ、OB交流会として、在学時のゼミ単位や学科単位など、気軽に参加できるミニ同窓会に予算付けし、皆様が「参加しやすい同窓会」を模索していければと思います。同窓会の会員の皆様は医療・保健・福祉の専門職の方々であり、社会における様々な場面において御活躍されているということもあり、同窓生同士が交流の機会を持つメリットは大きく、会員それぞれの将来はもちろん、医療・保健・福祉の面において社会的にも大きく役立つものと確信しております。また、同窓会支援室との協力を図りながら、支部会則や役員会の立ち上げ等を目指していきたいと思います。

会員の皆様と創る、皆様のお役に立てるような同窓会支部の運営を目指していきたいと思いますので、会員の皆様のご理解とご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

東京キャンパス便り



新たな旅立ちの季節を向かえ、皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

平成19年４月に新潟医療福祉大学は事業創造大学院大学とともに、東京キャンパスを設置しました。本学東京キャンパスは、東京の丸の内にあり、東京駅に隣接した高層ビル「サピアタワー」の10階にあります。同じフロアには本学のほか、京都大学、東北大学、立命館大学などの10を越える大学の東京キャンパスがあります。

本学の東京キャンパスには、セミナールーム、会議室、ラウンジなどがあり、インターネットを利用して本学キャンパスと結んでの講義、研修会、講義等を行うことが可能です。平成19年度のオープン以来、日本保健医療福祉連携教育学会の理事会、専門職に対する研修会、連携教育に関わる海外視察の打ち合わせ会議、本学同窓会の会議等が行われました。

また、今後へ向けての有効活用の面からも検討が行われております。平成21年度には、東京キャンパスを会場として、**「教員のためのバイオメカニクス教授法セミナー」**が行われる予定です。動作分析について学生に講義をする場合、教員がどのように講義をしたらよいかを学ぶためのセミナーです。動作分析の最新の知見を踏まえた講義等が他大学および本学の教員によりなされます。セミナーは４ヶ月にわたり、延べ９日間になる予定です。このほかにも、東京キャンパスを利用したセミナーが計画されております。

本学のキャンパスが東京にもあるという利点をおおいに活用して、国内での教育・研究活動等への有効活用のほか、世界に向けての本学の持つ知識と技術を発信できる拠点となることを願っております。

（理学療法学科　教授　伊藤 隆）

No.5 2009.3.10

新卒業生メッセージ

質　問
① 学科／名前
② 4年間の思い出（一番印象的なこと）
③ 4年間でやり残したこと
④ 働くにあたっての目標
⑤ 一言

① 理学療法学科／大森 愛美

② 大学生活で一番印象に残ったことは、友人と様々な土地へ旅をしたことです。様々な文化に触れることができ、自分自身の視野が広がったと思います。
③ 毎日仲間と楽しく過ごすことができたので、もっと勉強を頑張りたかったです。
④ 患者様のために一生懸命頑張りたいと思います。
⑤ 最高な仲間たちに出会えて素晴らしい毎日を過ごし、とても充実した4年間でした…乾杯!!!!!!

① 作業療法学科／池之上 和樹

② 4年間の一番の思い出は、学園祭や四送会（出し物）などの行事を学年全員で行ったことです。学年全員で何かをやるということが少なかったので、学年全員が1つになって何かをやる学園祭や四送会は、とても良い思い出でした。
③ 学年全員でもっと思い出を作りたかったです。飲み会や旅行などを計画し、学生時代にしかできない思い出を作りたかったです。
④ 勉学に励むことはもちろん、自分がなぜ作業療法士になりたいと思ったのかなどの初心を忘れないようにしたいです。そして、１人でも多くの患者様の役に立ち、患者様と一緒に笑っていられるような作業療法士になれるように頑張ります。
⑤ 友達や先生方、最高の4年間を本当にありがとうございました。それぞれが各病院や施設に就職しますが、数年後またみんなであった時はバカ笑いしましょう。

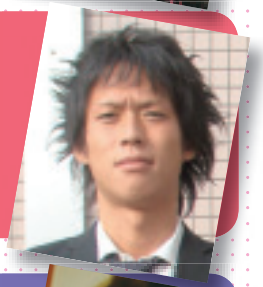
① 言語聴覚学科／小野 巧太

あっという間の4年間という感じで今でも卒業というのが信じられません。…信じたくありません。
同じ釜の飯を食った友人や両親のように優しく面倒を見てくれた先生と離ればなれになる辛さ…想像ができません。しかし、僕は思います、『人間は何かを失うと共に何かを得るのだと』。10年後、僕はどんなSTになっているか期待半分と不安半分…複雑です。しかし一人前のSTになるまでは絶対弱音は吐きません。患者さんの笑顔が僕のエネルギーになるのだから。

① 健康栄養学科／野水 碧

② キャンプ、民謡流し、BBQ、伍桃祭、飲み会、旅行などなど挙げだしたらきりがないけれど…何よりもみんなで過ごした日々が1番♥
③ 4年間があっという間にすぎて…もっと遊べば、もっと思い出を作ればよかったと思います。
④ 自分に厳しく人にやさしい人、そしていつも笑顔を絶やさず、周りから信頼される管理栄養士になりたいです。
⑤「H♥N05」がこの48人で本当によかった。卒業してそれぞれ進む道や住んでいる場所が違ってもこれからもずっと…我等友情永遠也。

① 健康スポーツ学科／松澤 真



② 強化サッカー部に所属し、四年目でインカレに出場したことです。
③ もっと大学行事に参加したり、他学科と交流を深めたりすればよかったです。
④ 常に目標を持って仕事に取り組みたいと思います。限界を自分で作るのではなく、常にチャレンジしながら人として成長したいと思います。
⑤ 大学生活は、将来自分のやりたい仕事を探す良い機会だと思いました。

① 社会福祉学科／新保 皓子

② 部活で行った四送会で、みんなと一緒にいろんなパフォーマンスをしたこと。大変だったけど、やり遂げた達成感が気持ち良かったです！
③ もっとみんなとふれ合いたかったし、アルバイトや様々なことも体験したかったです。
④ 私は、児童養護施設という環境で色々な問題にぶつかると思いますが、子どもの気持ちを真摯に受け止めて信頼関係を築きたいです。
⑤ 大学で学んだことは、私にとってとても大切な宝物です。学科のみんな、先生、部活動の後輩たち、そして影響を与えてくれた人たちに感謝の気持ちを込めて、ありがとう！

同窓会新役員紹介

H20年度卒
理学療法学科／中川 真紀子

今年度の理学療法学科同窓会役員となりました中川真紀子です。私はこの大学で4年間を過ごし、多くの友人や尊敬する先輩方・先生方と出会うことができ、とても充実した楽しい大学生活を送ることができました。またこの新潟医療福祉大学で学び経験してきたことは、これから社会人となって働いていく上で私の原点になっていくと思います。この大学で学んだ多くのこと、そして社会に出て学んだことを後輩達へ伝え、後輩達が勉強しやすい環境を整え、そして就職や実習ではたくさんのアドバイスを提供していきたいと思っています。そして後輩達が卒業する時にはこの大学でよかったと思ってくれれば嬉しいです。

卒業後は、新潟医療福祉大学同窓会役員として出来る限りの仕事を行い、他学科の同窓会役員や先輩方との連携を大切にしながら新潟医療福祉大学の発展に尽力していきたいと思います。

H20年度卒
作業療法学科／青木 良介

この度、作業療法学科同窓会役員となりました青木良介です。

同窓会役員は会報誌などを通じて在校生と卒業生のパイプ役となり、職場の現状や内容、卒業生がどこの地域で働いているかなどを伝えることや、国家試験のサポートなど同窓会の様々な活動を運営することが主な仕事です。

同窓会役員というのは、卒業生と在校生をつなぐとても大切な役割を持つと思うので、今回同窓会役員をやらせていただくにあたって、学科の代表として最後まで責任を持って行い、新潟医療福祉大学の伝統をつないでいきたいと思います。精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

H20年度卒
言語聴覚学科／大港 洋平

同窓会役員としての抱負をと言われましたが、これとして『ピンッ』と来るものが思い浮かばずにこうやって机に向かって筆をとっています。かれこれ2時間は経過しているだろうか…。時間というものは残酷にも過ぎていく。過ぎていった時間を取り戻すこともできない。だからこそ僕は１日１日を有意義に活用したいと思うようになりました。

同窓会役員も僕のこれからの人生の刺激になるのではないかと思い立候補させていただきました。楽しくやれたらいいなって思っていますので、よろしくお願いいたします。

H20年度卒
健康栄養学科／石添 拓

５期生の同窓会役員を務めさせていただく、健康栄養学科の石添拓です。

新潟医療福祉大学健康栄養学科での４年間では、尊敬できる先生方に勉強以外にも多くの事を学ばせていただき、社会人の基礎として将来の糧になっていくと思います。また、共に学んだ48人は卒業後、それぞれの道を歩んでいきますが、共に過ごした４年間は色あせることなく、一生の宝物になると感じています。

同窓会役員としての仕事を通して、在校生の方々に卒業生の卒業後の状況、実際の職場の職務内容や雰囲気などといった情報を提供することで、在校生と卒業生の情報交換を密にする橋渡しができればと考えています。

そのためには、５期生のみなさまの協力が不可欠です。ご協力をお願いする際には、よろしくお願いします。

H20年度卒
健康スポーツ学科／玉木 宏昌

第５期生同窓会役員になりました玉木宏昌です。同窓会役員の仕事は在校生や新潟医療福祉大学へ入学を希望する受験生に卒業後の情報を提供し、よりよい学生生活を送ってもらうことです。現在どこで、どのように活躍しているのか、４年間の経験を含めた情報を提供していきたいです。私たちがリアルな情報を定期的に伝えることで在校生や受験生のやる気に繋がったり、励みになると思います。つまり私たち卒業生と在校生、大学の架け橋となる大切な仕事だと感じております。

特に私が卒業した健康スポーツ学科は私たちが最初の卒業生です。就職先やその仕事内容などの情報は新鮮なものになるでしょう。責任のかかる仕事とは思いますが、この伝統がいつまでも消えぬよう、また、新潟医療福祉大学がさらに飛躍できるよう精一杯努めていきます。５期生の皆さんの力が必要になる時があるかと思いますが、その時はご協力お願いします。

H20年度卒
社会福祉学科／宮下 修平

社会福祉学科の宮下です。この度第５期生同窓会役員の代表を務めさせて頂く事になりました。

新潟医療福祉大学で過ごした４年間は、たくさんの人たちとの出会いのなかで人間的に成長することができ、それが大きな財産となり、これからの自分を支えていくものになっていくと思います。

また、同窓会役員として卒業した後も在校生がよりよく過ごせるように卒業後の状況、職場の現状や内容などの情報を伝えていけるように務めていきたいと思います。

皆さん、どうぞよろしくお願いします。

卒業生の近況

質問項目
① 名前　② 何期生・学科
③ 勤務先名・職名
④ 今の職場に決めた理由はなんですか？
⑤ 働く前と働いた後でのギャップはありますか？
⑥ 大学時代にやっておけばよかったことはありますか？
⑦ これからの目標を教えてください。
⑧ 在学生や卒業生にメッセージをお願いします。

① 川岸 嵩典

② 2期生・理学療法学科
③ やわたメディカルセンター（石川県）・理学療法士
④ 尊敬できる部長（リハの責任者）がいるから。病院見学の際に案内していただきました。
⑤ 職場に限らず、リハ関係者（特にPT）には変わった人（マニアックな人）が多いことにびっくりしました。
⑥ 旅行（国内外）
⑦ いろいろな土地を旅行したいと思います。
⑧ 興味のあることや趣味をいっぱい持ちましょう！

① 熊倉 里美

② 4期生・言語聴覚学科
③ 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院（長野県）・言語聴覚士
④ リハセンターということでスタッフが充実していることと、成人と小児どちらにも携われること。何より見学に行った際の暖かい雰囲気で決めました。
⑤ 責任感を考えるとまだまだ怖いことだらけですが、患者様の回復や笑顔がこんなに嬉しいものだと思いませんでした。知りたいこと、やりたいことが増え楽しみも増えました。
⑥ 幅広い知識や話題がほしいなぁといつも思います。学生時代に、もっと色々な所に行ったり、交友関係を増やしたりしたかったです。もちろん勉強も。
⑦ 現在、職場で以前から興味のあった小児分野の研修に入らせてもらえることになりました。しっかり勉強して患者様やご家族の方が安心できる言語聴覚士になりたいです。
⑧ ご卒業おめでとうございます。卒業生は社会で、在学生は在学中にこれからもたくさんの経験をされると思いますが、楽しいこと悲しいことその一つ一つが今後の自分につながります。大切にして頑張ってください。

① 笹川 哲弘

② 3期生・社会福祉学科
③ 特別養護老人ホーム 吉田愛宕の園（新潟県）・介護職
④ ユニットケアを開設から携わりたかったからです。
⑤ ユニットケアの難しさや思いが実現できないもどかしさがあります。
⑥ 知識はいくらあっても足りないと感じています。また、アルバイトばかりしてないでもっと行動的にいろんな出会いや体験をしておけばよかったと思います。
⑦ 自分の思いを実現できるように努力していきたいです。
⑧ 自分の信じる道を歩んでください。

① 稲垣 祐真

② 2期生・作業療法学科
③ 埼玉みさと総合リハビリテーション病院（埼玉県）・作業療法士
④ 見学させて頂いた先輩方がみなさん優しく、また当時主任だった先生の熱い想いに感動したからです。あとガラス張りの広いリハ室にビックリしました！
⑤ 正直、就職前は学生気分が抜けず、かなり仕事をなめていました。そのため就職してからすぐに痛い目に遭い、仕事に対する責任の重さを痛感しましたね。こんな新人を受け入れてくれた対象者の方々に感謝したいです。
⑥ もっと他の学科の人や先生と話をしたり、いろんな活動に参加すれば良かったと思っています。この仕事に就いてから人との繋がりの重要性を感じましたね。あとやっぱりもっと遊んでおけばよかったと常々思っています。
⑦ まずは自分の知識・スキルをより高め、対象となる方々の役に立っていきたいです。あと、当然のことかもしれませんが、ただ在宅生活に戻るのではなく、仕事や家事などの家庭内役割、自動車の運転など様々な点に介入し、より生活の質が高まるような関わりができるOTになっていきたいです。
⑧ 働いてみて気付いたのですが、学んだときは『こんなの必要なの？』と思うことが結構多くて良く寝ていたのですが、いざ働いてみると『あぁ、そういうことか』、『ちゃんと聞いておけば良かった』と思うことが多々あります。ためにならない授業はないので睡魔に負けないで頑張ってください。いつか役に立つ時が来ますよ！　卒業生のみなさんは就職して沢山失敗すると思いますが、めげずに自分でも出来ることからやってください！　また、実習と同じように対象となる方々に寄り添う気持ちを忘れないでください。

① 菊池 里美

② 3期生・健康栄養学科
③ 総合フードサービス（新潟県）・管理栄養士
④ 食育に興味があったため
⑤ 特にないです。毎日楽しいです！！
⑥ 楽しい4年間だったので満足です☆☆
⑦ まだまだ毎日が勉強なので、いろんなことに興味を持って知識を増やしていきたいです。
⑧ 仕事でわからないことがあると、学校の教科書やノートで調べたりもしています。大学で学んだことがとても役に立つので、授業を大事にしてください！

在学生による先輩訪問日記

先輩訪問をして感じたこと

社会福祉学科　3年　武藤 祥

平成21年２月某日、重症心身障害児施設長岡療育園（長岡市）へ先輩訪問に行ってきました。長岡療育園は、少し街中から離れたところで静かな環境にありました。また長岡医療と福祉の里ということもあり周囲には病院や他の医療福祉施設が多くありました。

長岡療育園では、諸橋龍樹さん（１期生）、徳永大輔さん（２期生）、東海林理子さん（４期生）の３人の先輩が働いています。３人とも社会福祉学科出身です。

長岡療育園に訪問してはじめに、諸橋先輩に主に３つの病棟を案内していただきました。障害児施設ということでしたが多くの入所者の方が成人の方で驚きました。また、病棟ごとの違いや施設の特色、職員の方について色々と説明していただきました。私は高齢者施設に行く機会が多く、今回障害児施設について学ぶことができ、施設の違いや共通点等に気付けて勉強になりました。一番の印象は、施設では介護よりも医療のイメージが大きかったことです。雰囲気も少し病院色が強く感じました。

次に３人の先輩方と雑談のような形式でインタビューをさせていただきました。ほとんど初対面の方でしたが助けてもらいながら、大学時代の思い出等から話しました。先輩方の現在の仕事は、指導員として、入所者の方やそのご家族、他の専門職との関係等を間接的に援助することだそうです。このためには医療に関する知識をもち、ご家族の方に十分に説明できることが重要であるとのことです。また、入所者の方の状況をよく把握することが大切な仕事のようです。現在の悩みについてお聞きしましたところ、自分たちの行う援助が対象者の方に合っているかどうか心配になるということでした。主観的な評価に満足してはいけないし、常に援助について客観的に考えることが援助する上で大切なことだそうです。今後の目標については、これからもよりよい援助ができるようにしていきたいとのことです。母校へ一言ということで、就職活動について一言貰ってきました。福祉分野や一般企業と考えるより、自分がやりたいことをした方がいい、福祉分野か一般企業か悩んでいたら一度経験してみると本当にやりたいことが分かってくる等、いい言葉を沢山貰いました。また、大学生のうちに遊んでおいた方がいいとアドバイスをいただきましたので、最後の一年は勉強しつつ就活もしつつ、目一杯遊びたいと思います。先輩方とお話しさせていただきとても楽しく勉強になりました。お忙しい中、大変ありがとうございました。

No.5 2009.3.10

卒業生の職場紹介

新リハビリ棟とコミュニティホール

田村佳美　社会福祉学科２期生

勤務先：農協共済中伊豆リハビリテーションセンター（静岡県伊豆市）
部　署：地域連携室 医療福祉課（ソーシャルワーカー）

●職場紹介

・回復期リハビリテーション病棟110床のリハビリ専門病院（私の所属）
・脳血管疾患や骨折、脊髄損傷、若年者のリハビリ（主に交通事故）、高次脳機能障害に対するリハビリ、嚥下障害に対するリハビリ、復職に向けたアプローチ（パソコン、自動車運転再開支援など）を得意とし、福祉事業、介護保険事業と連携した総合リハビリテーションを展開している。
・温泉地で有名な伊豆半島のほぼ中心地に病院がある。
・併設事業
＜身体障がい者分野＞
（旧法の更生・授産・療護・ショートステイ）、身障多機能事業、障害者生活支援センター
＜介護保険分野＞
通所リハビリ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業
・サテライト事業
伊東の丘（クリニック・通所リハビリ・介護予防通所介護・身体障がい者療護施設、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業）
・その他
近隣1市1町に訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業あり

●業務内容

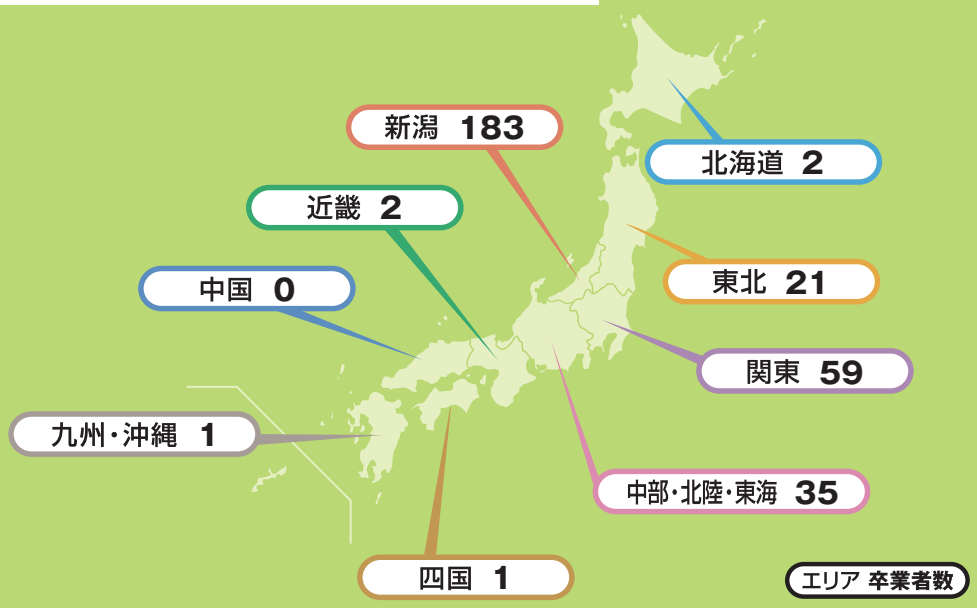
・回復期リハビリテーション病棟入院患者・家族への個別援助
・病棟師長・前方連携と協働のもとベッドコントロール
・必要に応じて外来患者・退院患者への情報提供
・関係機関との連携・会議参加などで顔と顔が見えるネットワーク作り
・後方支援として療養病院・身障施設・介護保険施設などへ訪問（随時）
・リハ実習生（PTS・OTS・STS）への情報提供
・各種研修への参加（県医療ソーシャルワーカー協会、県社会福祉士会、全国回復期リハビリテーション協議会主催研修など）
・静岡県東部地区の事例検討勉強会（2か月に1回）
・職場内での事例検討や勉強会（随時）

●今後の抱負

・新入職員との情報交換を密に行い、ソーシャルワーク部門を支えていきたい。
就職して早3年経ちましたが、4年目の私が新人を指導・フォローする立場となってよいものか考える面があります。来年度は室内の人事異動があり、私が色々な面で今まで以上に上司と密に情報交換をとりながら、ソーシャルワーク部門を支えていく状況となります。
ソーシャルワーカーに求められるものが多くまだまだ勉強不足な身ですが、職場内部だけではなく外部の研修等に積極的に参加して、自分自身のソーシャルワークスキルを磨いていくとともに、スタッフ皆でサポートし合いながら励んでいきたいと思います。

卒業生の就職状況

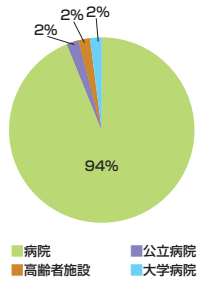
地域別就職者数（平成19年度卒業者）



都道府県	男	女	合計
北海道	1	1	2
宮城	1		1
秋田		2	2
山形	1	1	2
福島	6	10	16
茨城	4	1	5
栃木	3	2	5
群馬	2	8	10
埼玉	4	5	9
東京	9	7	16
千葉	2	4	6
神奈川	1	7	8
新潟	63	120	183
富山	1	4	5
石川	5	4	9
長野	9	9	18
静岡	1	1	2
三重		1	1
大阪		1	1
京都		1	1
香川	1		1
福岡	1		1
	115	189	304

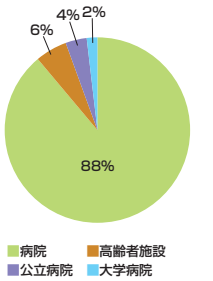
学科別施設種別就職状況・採用先（主な病院・施設）（平成19年度卒業者）

理学療法学科



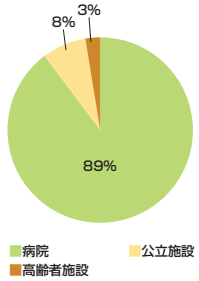
(医)愛広会/石川勤労者医療協会城北病院/(医)葦の会石井クリニック/(医)勝木会やわたメディカルセンター/(医)渓仁会西円山病院/特定・特別(医)慈泉会相澤病院/(医)三愛会三愛会総合病院/(医)社団醫光会駒井病院/(医)社団小柳医院介護老人保健施設楽楽/(医)社団健進会新津医療センター病院/(医)社団三思会東邦病院/(医)社団協友会八潮中央総合病院/(医)社団白美会白根大通病院/(医)社団鎮誠会季美の森整形外科/(医)社団筑波記念会筑波記念病院/(医)社団博友会金沢西病院/(医)社団博洋会藤井脳神経外科病院/(医)社団和風会橋本病院/(医)仁愛会新潟中央病院/(医)仁成会とやの中央病院/(医)宮仁会猫山宮尾病院/(株)日立製作所茨城病院センター/(財)温和会会津中央病院/(財)竹田綜合病院/(財)星総合病院/社団法人全国社会保険協会連合会金沢社会保険病院/特定(医)社団仁和会聖園病院/特定(医)博愛会菅間記念病院/長岡赤十字病院/組合立諏訪中央病院/慶応義塾大学月ヶ瀬リハビリテーションセンター/長野県厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンター/長野県厚生連新町病院/長野市民病院/新潟県厚生連/福島県厚生連白河厚生総合病院

作業療法学科



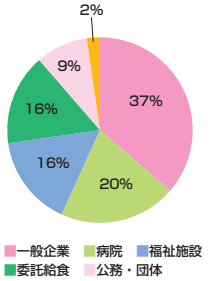
(医)愛広会/板橋中央医科グループ/秋田赤十字病院/安曇野赤十字病院/(医)医仁会武田総合病院/(医)輝生会初台リハビリテーション病院/(医)協友会八潮中央総合病院/(医)健寿会小山整形外科内科/(医)恒仁会新潟南病院/(医)社団勝木会やわたメディカルセンター/(医)社団北原脳神経外科病院/(医)社団三光会誠愛リハビリテーション病院/(医)社団主体会小山田温泉病院/(医)社団白美会白根大通病院/(医)社団博友会金沢西病院/(医)社団誠馨会セコメディック病院/(医)社団陽和会武蔵野陽和会病院/(医)社団和風会千里リハビリテーション病院/(医)崇徳会田宮病院/(医)立川メディカルセンター柏崎厚生病院/(医)立川メディカルセンター悠遊健康村病院/(医)原会原病院/(医)博医会新潟こばり病院/(医)丸山会丸子中央総合病院/(財)温知会会津中央病院/(財)竹田綜合病院/(財)脳血管研究所美原記念病院/(財)脳神経疾患研究所南東北春日リハビリテーション病院/(財)榛名荘榛名荘病院/(財)横浜勤労者福祉協会汐田総合病院/静岡県厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院/(福)桜井の里/(福)上越老人福祉協会/(福)富山県社会福祉総合ｾﾝﾀｰ富山県高志リハビリテーション病院/特定(医)水明会佐渡荘/独立行政法人労働者福祉健康機構東京労災病院/長野医療生活協同組合長野中央病院/長野県厚生連小諸厚生総合病院/長野県厚生連佐久総合病院/新潟勤労者医療協会下越病院/新潟県厚生連/新潟県立小出病院/新潟市民病院/新潟大学医歯学総合病院

言語聴覚学科



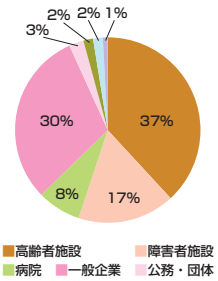
(医)愛広会/板橋中央医科グループ/秋田県医療技術職員/(医)回生会大西病院/(医)恒仁会新潟南病院/(医)三愛会埼玉みさと総合リハビリテーション病院/(医)三友堂病院/(医)しただかもしか病院/(医)社団輝城会沼田脳神経外科病院/(医)社団木下会千葉西総合病院/(医)社団協友会柏厚生総合病院/(医)社団三喜会鶴巻温泉病院/(医)社団アルペン会室谷病院/(医)社団明芳会横浜旭中央総合病院/(医)尚寿会大生病院/(医)真仁会北日本脳神経外科病院/(医)創生会真岡中央クリニック/(医)大誠会内田病院/(医)中央群馬脳神経外科病院/(医)つくばセントラル病院/(医)徳州会新庄徳州会病院/(医)徳州会茅ヶ崎徳州会病院/(医)端穂会川越リハビリテーション病院/(医)明精会会津西病院/(財)温和会会津中央病院/(財)竹田綜合病院/(財)脳神経疾患研究所総合南東北病院/長野県厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンター/(福)心友会介護老健保健施設汐彩の郷/諏訪赤十字病院/高岡市職員/特定・特別(医)慈泉会相澤病院/特定(医)社団嵐陽会三之町病院/栃木県厚生連佐野厚生総合病院/新潟県厚生連/新潟県医療技術職員

健康栄養学科



(医)愛広会/(医)社団天宣会北柏リハビリ総合病院/(医)新成医会総合リハビリテーションセンターみどり病院/(医)立川メディカルセンター立川総合病院/特定(医)楽山会三島病院/(財)健康医学予防協会/(財)積善会曽我病院/(福)亀田郷芦沼会/(福)長岡東山福祉会/(福)櫻灯会特別養護老人ホーム日の出紫苑/白根保健生活協同組合白根健生病院/長野県厚生連安曇総合病院/新潟県警察/新潟県厚生連/JA新潟みらい/新潟県職(学校栄養士)/新潟県職(管理栄養士)/市立大町総合病院/学校法人新潟総合学園/日清医療食品(株)中部支店/マルシン食品(株)/(有)みやけ食品/JR東日本フードビジネス(株)岩塚製菓(株)/ウエルシア関東(株)/(株)CSFコーポレーション/(株)ウオロク/(株)カワチ薬品/(株)クスリのアオキ/(株)ゲオ/(株)三宝/(株)すかいらーく/(株)日本栄養給食協会/(株)メデカジャパン/(株)メフォス

社会福祉学科



(医)愛広会/(医)真仁会南部郷総合病院/(医)立川メディカルセンター柏崎厚生病院/(医)共生会介護老人保健施設光の森/(医)財団明理会大和病院/(医)社団敬愛会末広橋病院/(医)社団ときわ会いわき泌尿器科/JA新潟県厚生連/JA柏崎/JA越後中央/阿賀町役場(一般行政)/新潟県警察/(社)新潟県労働衛生医学協会/新潟県臨時的任用職員/長野県厚生連長野松代総合病院/(福)いじみの福祉会/(福)いなほの郷福祉会/(福)こせん福祉会/(福)つばめ福祉会/(福)であいの会/(福)とよさか福祉会/(福)阿賀北老人福祉協会/(福)愛宕福祉会/(福)恩賜財団三条済生会/(福)恩寵園/(福)魚沼更生福祉会/(福)健周福祉会/(福)更生慈仁会/(福)佐渡社会福祉協議会/(福)松波福祉会/(福)上越老人福祉会/(福)常陽会/(福)心友会/(福)新潟しなの福祉会/(福)雪国魚沼福祉会/(福)中越福祉会/(福)中蒲原福祉会/(福)中東福祉会/(福)同愛会/(福)博仁会/(福)柏崎市社会福祉協議会/(福)邦知会/(福)勇樹会/(福)長岡三古老人福祉会/(福)長岡福祉協会/(福)長岡老人福祉協会/(株)VSN/(株)エー・チーム/(株)キューピット/(株)コメリ/(株)さくらメディカル/(株)ジャコム/(株)はあとふるあたご/(株)ピュア/(株)ブルックリン/(株)ホテル泉慶/(株)レオパレス21/(株)共育舎/(株)松明ケアサービスセンター松明/(株)新潟中央ホーム/JR東日本旅客鉄道(株)/アサヒアレックス(株)/シンコール(株)/セコム上信越(株)/原信ナルスホールディング(株)/日本通運(株)/新潟トヨタ自動車(株)/新潟綜合警備保障(株)/新潟冷蔵(株)/新発田信用金庫/青山商事(株)/石本商事(株)/積水ハウス(株)/日本海内航汽船(株)/日本郵政グループ/NPO法人ヒューマン・エイド22

No.5 2009.3.10

大学の近況

PBLチュートリアル教育について

看護学科　教授　本間 千代子

卒業生の皆様、お元気でしょうか、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

看護学科は３年目が終わろうとしております。４月より１年生を迎え、最高学年が４年生となり完成年度を迎えます。

平成18年の開学から専門職業人の教育ということでPBL（Problem-Based Learning）テュートリアル教育、問題基盤型学習を実践してきました。そのことを簡単にご報告したいと思います。昔は専門の世界も10年一昔と言われましたが、今は「知識の半減期は６年」とも言われています。限られた基礎教育の時間の中だけでは、今日専門職業人として必要な、急速に増加する知識や知見を獲得してゆくことは現実問題として不可能です。したがって医療人として実践の現場で責任をもって、さまざまに変化する状況の中で適切に柔軟に、問題に対応できる能力を育成する有効な教育手法として注目されたからです。

１年次ではフイジカルアセスメント（体の中でおこっている情報を得る技術）、２年次はそれぞれの発達段階の健康問題を捉える看護の展開、３年次、４年次は臨地実習の学習の中で実際の看護問題を考えるPBC（Problem-Based Conference)を一貫した柱とし計画しました。

講義中心の伝統的な形態（teaching）とは異なる学習者が疑問や問題点に自ら積極的に解決しようとして達成される学習（learning）であり小人数グループ（6～8）人で協力して相互に繰り返し行う学習です。学生中心の学生主体の学習で、問題や疑問に基づいて調べながら進んで行きます。毎回のセッションでも自己評価を行いますが、ユニットの最後には自己評価や振り返りのまとめ（ポートフォリオ）を自分の中で行います。

まだ卒業生は出ていないのですが後１年したら看護学科１回生が皆様とともに連携した多職種協働をおこなう人として仲間にはいることになります。その時はどうぞよろしくお願い致します。

平成21年度カリキュラム改定についてその意図と内容等

教務委員長　能登 真一

同窓生のみなさん、お元気ですか。このたび表題についてご紹介させていただく機会を得ました。卒業されたみなさんにとっては、カリキュラムなんて遠い昔のことで今は関心が薄いこととは思いますが、在籍していたころのカリキュラムを思い出しながら目を通していただければ幸いです。

さて、本学は開学からちょうど８年が経ちました。この間、１期生から４期生までが受講した平成13年度カリキュラムと５期生から８期生までが対象の平成17年度カリキュラムが運用されてきました。それぞれ４年間ずつ運用されてきているということですが、このたび、９期生を迎えるにあたり、関係諸法の改正が重なったこともあって、平成21年度カリキュラムとして新たに改定することになりました。

その最大の特徴としては、保健医療福祉基礎科目群（大学のコアを成す科目群としてコアカリキュラム「通称：コアカリ」として呼んでいます）をこれまで以上に充実させたことがあげられます。具体的には、これまで１年後期に開講していた基礎ゼミⅡを「連携基礎ゼミ」として２年後期に配置した他、３年次に「保健医療福祉連携学」を「医療現場」、「福祉分野」、「保健・地域分野」に分け、いずれかを必修することとしました。つまり、４年次に開講される「連携総合ゼミ」までの４年間を通じて、保健医療福祉の連携学を学習できる体系を創り上げたということになります。これらのコアカリを学ぶことで、より実践的に協働できるQOLサポーターを育てるというのがねらいです。

おそらく今は、臨床現場で働くほとんどの同窓生のみなさんにとって、現場での連携は当たり前のことになっているでしょう。それを学生時代からできるだけやってみよう、８学科が有機的に機能している本学でこそそれが実践できると考えた末の産物です。

もちろん、コアカリ以外にも、第二外国語としてスペイン語やドイツ語を加えた他、数学や物理などの自然系の科目を「基礎」と「世界」に分け、それぞれ教養科目として発展的に配置し、教養科目群の充実も図りました。個々の科目の名称も親しみやすいものにちょっとだけ変更してあります。学科の専門科目ももしかしたら大胆に変わっているかも…。ぜひ一度、大学のホームページから新しいカリキュラムを覗いてみてくださいね。

新潟医療福祉大学における保健医療福祉連携教育の取り組み

義肢装具自立支援学科　教授　真柄 彰

各種専門職のチームアプローチによって対象者のQOL（生活の質）が高まることに注目があつまり、全国セラピスト養成校でも連携教育の認識が高まっています。各地の養成校は競って連携教育先進国の英国などに学ぶなどして、連携教育システムの研究、構築中です。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、その他多くの職種を目指す学生が将来携わるリハビリテーションにおいてはチームアプローチがたいへん効果的なのです。患者さんが家庭復帰するときもスタッフ同士の目標が統一できていれば、重度な障害があってもまた幸せな家庭生活ができます。

当学で学ぶ８学科の学生は４年間リハビリなどの勉強をし、現在はまだ選択科目ですが仕上げとして「総合ゼミ」という連携の練習を７～８名の異なる専門の学生のチームでおこないます。今年私が担当したグループは実例にもとづいた事例の「重度脳卒中四肢麻痺患者さんの地域家庭復帰」を題材にしました。事例の経過を調べ、わからないことはそれを専門とする学科生が調べてみなに説明します。各専門からみて患者さんが無事に家庭復帰して家で生き甲斐をもって生活するにはどうすればいいのかアイディアを出し合い、解決しなければならない問題点をならべて、どうすれば障害を抱えながら家庭で生活できるか作戦をねり、最終的に解決計画を発表しました。

昨年は１名の留学中の当大学の学生と一緒に教員数名が連携教育先進地の英国各地の大学へ研修に行きました。英国の保健医療福祉関連養成校では連携教育は義務です。実際の事例で学んでいるレスター大学では複数の大学の学生が多職種のチームを作って実際の患者さん宅を訪問したり開業医を訪問したりしたあとでポスターを作成して討論をおこなうという方法でした。連携演習にはモジュールと呼ばれる事例を使います。モジュールは実事例、模擬事例や仮想事例を使います。当学では多くの学生が「連携総合ゼミ」を同時に学べるよう英国の大規模な大学にならい仮想事例データベースの作成をめざして事例の蓄積やＴＶ会議システムによる連携教育などの研究をしています。昨年の連携の「総合ゼミ」発表会では尾道市医師会長と当大学をインターネットでむすび、発表を聞いていただき指導を受けました。４年間リハビリの勉強をしたら、最後の仕上げに連携の演習ゼミをやらなければいけないと思います。

当学も協力して「日本保健医療福祉連携教育学会」が昨年設立され、当学は事務局を担当しております。日本の連携教育を推進できればと考えています。

生涯学習センター報告

健康栄養学科　准教授　渡邉 榮吉
義肢装具自立支援学科　教授　東江 由紀夫

平成20年度は、豊栄地区公民館（委託）との共催で「秋の市民大学講座」を豊栄ふれあいセンターと新潟医療福祉大学を会場に表１、表２の内容で実施しました。この講座は、『脳･食･からだの力』をテーマにそれぞれがもつ「健康を継続する力」について考えてみる3回の講座と、新潟医療福祉学会同時開催で『ふれあい健康チェック』、『いきいき健康体操』、『こころの相談』の３つのイベントを開催しました。参加した住民全員から、来年度も継続していただきたいとの声が聞かれ盛会裡のうちに終了しました。

この他、平成20年度の活動として、11月22日（土）に、新潟リハビリテーション病院共催による『健康長寿セミナー』をテーマに新潟医療福祉大学・行政（新潟市北区・北区自治協議会）との連携で本大学、高橋学長の挨拶後、和太鼓部の演奏する中、病院祭が開催されました。参加された地域住民からはリハビリテーション病院の診療理念を理解することができた、認知度の向上に繋がったとの声が聞かれました。21年度は産・学・官の連携を強化し、さらに、住民の期待に応えるテーマを企画し充実を図りたいと考えております。

21年度の活動としては、とよさか中高年教養大学から本大学学習センターへの講座開催の依頼で健康長寿学（加齢と機能）をテーマに健康チェック・健康維持体操を含めた年11回の講座開催と20年度に実施した、「秋の市民大学講座」および、リハビリテーションとの共催による「病院祭」を予定しています。

表１　秋の市民大学講座実施内容

回	日　時	テーマ	講　師	参加人数
1	10月14日（火） 19:00～20:30	脳の力 ―日々のくらしと脳―	新潟医療福祉大学 医療技術学部 伊藤 隆　教授	32人
2	10月21日（火） 19:00～20:30	食の力 ―健康なからだづくりに向けて―	新潟医療福祉大学 健康科学部 渡邉 榮吉　准教授	27人
3	10月21日（火） 19:00～20:30	からだの力 ―からだが動くしかけ―	新潟医療福祉大学 医療技術学部長 江原 義弘　教授	25人

表２　新潟医療福祉学会同時開催イベント内容

回	日　時	テーマ	講　師	参加人数
4	10月25日（土） 9:30～11:00	ふれあい健康チェック	新潟医療福祉大学 健康科学部 清水 由美子　講師	20人
5	11:15～12:00	いきいき健康体操	いきいき健康体操 宮北 栄利子　先生	20人
6	13:00～14:00	こころの相談	新潟医療福祉大学 医療技術学部 渡邉 良弘　准教授	20人

第8回新潟医療福祉学会学術大会の開催報告

第８回学術大会実行委員長（義肢装具自立支援学科　准教授）　阿部 薫

1　学術大会開催までの不安と期待

10月25日（土）、本学にて第８回新潟医療福祉学会学術大会が開催されました。本学会は2001年に新潟医療福祉大学の開学と新潟リハビリテーション病院が開設されたことを記念して設立され、毎年学術大会が開催されており、今大会で第8回を迎えました。

毎年の学術大会は本学の８つの学科が順番に担当することになっており、今回は義肢装具自立支援学科が担当しました。昨年度は看護学科担当のもと、盛大に第7回大会が開催され、その準備状況の完璧さやスタッフの一糸乱れぬ行動とスケジュール管理にはただ脱帽するばかりでした。そして果たして我々が担当する第８回大会は、こんなに盛大にできるだろうかと不安になったものでした。義肢装具自立支援学科の教員は小チームであり、大半が関東出身で地元にコネクションもなく、2007年に学科が開設されたばかりと不利な条件を鑑みると…答えは「自分たちにできる範囲でがんばろう」と一つに集約されました。

幸いにして当学科には心強い支援チームがあります。毎月のように開催されるキャンパスツアーやオープンキャンパスなどのイベント運営で鍛えられた学生たちの存在です。在学生は１年生と２年生しかおりませんが、2008年５月に仙台で開催された日本義肢装具士協会学術大会にほぼ全員が参加しているため学会というもの知っており、続いて８月に朱鷺メッセで行なわれた全国規模の学会である「リハ工学カンファレンス」の運営スタッフとして奮迅の働きを経験していることもあり、運営面に関しては密かな自信がありました。

2　学術大会は大盛会

さて学術大会の内容です。宮本晃先生（日本大学大学院教授）（右上写真）による特別講演「宇宙医学と宇宙飛行士の健康管理」が行なわれました。宮本先生は日本人宇宙飛行士第１号の医学選抜から主導的に関与され、これまで経験されてきた宇宙医学の世界から宇宙開発の裏話まで、とても楽しい1時間でした。またシンポジウム「義肢装具自立支援とは何か」では、義肢装具自立支援学科の学生が将来活躍することが想定される分野の専門家６名による講演が行なわれました。学術発表では、一般演題10、ポスター演題29の研究成果が発表され、学外に対しても本学における各学部･各学科の連携を示すことができました。参加者（受付数）は学内（教員・院生・学部）59名、学外（非会員・来賓・卒業生・保護者など）55名、スタッフ（学科教員･学生）50名の計164名でした。また同日には新潟医療福祉学会総会、同窓会総会も開催されました。

3　さいごに

来年も同時期に作業療法学科大山学科長大会長で学術集会が開催企画されています。ご協力いただきました各位には、紙面をお借りして心から深謝申し上げます。

No.5 2009.3.10

学会出席報告
6th International Workshop for Musculoskeletal & Neuronal Interactionsに参加して

理学療法学科　助教　椿 淳裕

2008年５月８日から11日まで、ドイツ中西部の都市ケルン近郊のBergisch Gladbachにおいて、かつて城として使われていたホテルKardinal Schulte Hausを会場に、6th International Workshop for Musculoskeletal & Neuronal Interactionsが開催されました。この学会は、The International Society of Musculoskeletal and Neuronal Interactions（ISMNI）が２年に１度開催し、ヨーロッパを中心にアメリカ、カナダ、ブラジル、オーストラリア、中国など世界各国から筋･骨･神経およびその相互作用に関連する分野の研究者が集まります。私が参加した会においても、整形外科学やスポーツ医学、神経学を専門とする医師、歯科医師、生理学や生物学を専門とする研究者、獣医師、理学療法士、工学系の研究者など、様々な分野の研究者が参加しており、刺激の多い学会でした。

４日間の学会期間中に、12題のKeynote Lecture、57題の口述発表、50題のポスター発表がありました。Keynote Lectureではそれぞれの分野を代表する研究者が講演し、普段論文でしか目にすることのない方々から直接話を聞くことができました。日本からは３題の口述発表がありました。スポーツ医学を専門とする整形外科医より１題、歯科医師より１題、私の演題が１題でした。ポスター発表においても、連日活発な討論が行われ、参加者の熱意を感じました。

と、それらしく書いてきましたが、演題を応募する時点ではポスター発表で何とか採用されれば、と願っての登録でした。口述発表になるとは全く考えておらず、プログラムが届いてから日本を発つ前日まで、髙橋学長と理学療法学科の久保先生には、内容と英語のチェックにかなり時間を割いていただきました。また会場に着いてからも、髙橋学長のご友人であるDr. Martin Rungeに最終チェックをしていただくなど、直前まで準備に追われましたが、無事に終えることができました。

研究内容が近い場合、研究者のバックグラウンドの違いによって研究の視点も若干異なります。そのような人達により発表や討議が行われることで、双方に有意義であるとともに、その分野も拡がっていくのかなと、感じました。私自身においても、現在の研究テーマに関して、様々な視点から助言をいただけたことは、非常に貴重でした。これらの助言は、今後の研究だけでなく、学生指導や臨床活動へも反映できるものと考えます。日頃の活動での発見や疑問をもとに、多くの視点から意見を聞く機会を作ってはいかがでしょうか？

国際交流委員会報告

理学療法学科　教授　伊藤 隆

新たな出発の季節を迎えました。皆様、清清しい気持ちでおられることと存じます。

平成20年度に行われました国際交流委員会関係の事業のご報告を致します。国際交流事業あるいは海外語学研修事業として、ロシアハバロフスク極東総合医科大学との交流事業、南オーストラリア大学への研究及び研修事業、「空飛ぶ車いす」事業への学生の参加、カリフォルニア州立大学フレスノ校における研修、アジア研修（フィリピンでの大学等訪問）、アメリカUCLA大学病院訪問などが行われました。

これらの事業を通じて、教員は海外の大学等とのコミュニケーションを深め、教育および研究上の相互協力を行いました。海外語学研修に参加した学生諸君も実際に海外の教育の現場に身をおいて、積極的な外国の学生に圧倒されたり、異国の文化に触れたり、総じて有益な経験をしたようです。

本学の持つ保健・医療・福祉分野における知識と技術を広く世界に発信し、広く情報を得ることは人々のQOLの向上を目指す本学にとっても、大変、好ましいことであり、今後もこの事業が有効に活用され、本学がさらに世界に貢献できるようになることを願っております。今後とも皆様のご理解とご支援をよろしくお願い致します。

図書館からのお知らせ

今年は進化論を唱えたダーウィンの生誕200年、「種の起源」の出版から150年だそうです。その中に「It is not the strongest of the species that survives, nor the most intelligent that survives. It is the one that is the most adaptable to change.」という言葉があります。日本語だと「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である」と訳せましょうか（確か前号にも同様の記述が…）おりしも第44代アメリカ大統領のオバマ氏が「we can change!」と演説し、その影響もあり昨年の世相を象徴する漢字として「変」が取り上げられたのも記憶に新しいところです。

図書館も「変化」していますよ。昨年は希望図書（リクエスト）制度、実習貸出制度をスタートさせました。卒業生の皆さんに関係の深いところでは、実習先施設職員の方への図書館開放でしょうか。これまでの図書館カード発行は、卒業生の要件において手数料200円、有効期間は１年でした。新サービスは手数料無料、有効期間３年というものです。例えば県内の医療福祉施設にお勤めの方は殆ど本学の実習先として登録されていますので要件に合致することでしょう。昨年10月のサービス開始以来、本学の卒業生以外の方からの好評も得ており、これまでに30名の方からお申込をいただきました。県内の医療福祉従事者を支援するという視点から、大いに宣伝し活用いただきたいと願っています。

図書館は今後も柔軟に「変化」し続けたいと思います。これを機会にぜひ母校の図書館に顔を出してください。本学図書館の「変化」をお見せしたいですし、社会人として活躍する皆さんの「変化」も楽しみです。是非！　（図書館司書　星名孝修）

語学留学体験報告

海外留学を体験して

理学療法学科　3年　臼井 睦美

私は2007年5月から10ヶ月間、アメリカ合衆国カリフォルニア州フレズノに語学留学をしました。フレズノでは英語を学ぶのはもちろんのこと、その他にたくさんの異文化に触れることができました。アメリカ独立記念日・ハロウィン・Thanks giving day・クリスマスなど現地の一大イベントや、セコイヤ国立公園やヨセミテ国立公園、グランドキャニオンなどの壮大な自然を楽しんだことは一生忘れられない思い出です。また、語学学校にはアジアや中米・南米・中東などからもたくさんの留学生が来ています。初めは言葉も通じず、文化の違いに戸惑ったこともありましたが、留学生同士助け合いながら勉強し、セメスターが終わる頃には国籍や年齢関係なく皆とても仲良くなっていました。今でも彼らは私にとって良い友達であり、良い刺激となっています。

また、本学PT学科と姉妹校提携を結んでいるカリフォルニア州立大学フレズノ校PT学科の大学・大学院で、いくつかの授業を見学させて頂くこともできました。中でも興味深かったのはバランスクリニックとAnatomy Lab見学です。バランスクリニックでは、大学院生が高齢者や障害のある子供たちと共に活動します。ここでは簡単なお手伝いをしながら学生や患者様、インストラクターの方々とコミュニケーションを取り、治療を見学しました。Anatomy Labでは、PTの学生自身がメスを握り、献体されたご遺体を解剖し、骨・筋・神経・臓器などを実際に自分の目で見ながら解剖学を学びます。教科書やアトラスと比べ、実際に骨や筋、神経などを見て覚える方が強く印象に残り理解しやすいと感じました。日本のPTの学生がこのように実際にメスを握るような機会はなく、解剖見学実習もまだまだ少ないように感じます。毎週このような機会を得られるアメリカの学生がとても羨ましいと思いました。

私は留学を通し、ここには書き足りないくらいたくさんのことを学び、経験しました。時にはホームシックや辛いこともありましたが、今となってこの全てが自分にとってプラスとなっています。そして一生忘れることのできない思い出です。この留学を、これから先の自分の生活に活かしていきたいと思っています。このような素晴らしい経験ができたのも、たくさんの方々に支えていただいたおかげだと思います。留学をするにあたって関わってくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

セコイヤ国立公園

ヨセミテ国立公園

短期海外語学研修報告

アメリカ研修旅行を終えて

言語聴覚学科　3年　安藤 睦

今回の研修旅行では「異文化」体験を通し、多くのことを学ぶことができました。日本との時差はマイナス14時間で、昼夜の区別がなくなり、フライト13時間はとても長く感じられました。その一方で、アメリカ滞在中は不思議なほど飛ぶように時間が過ぎていきました。

出発前まで、初めて海外に行くことや言葉が通じないことで不安がいっぱいでした。英語は好きなのですが得意ではなく、また実際に英語で会話をした経験もなかったので、大丈夫かなと思っていました。研修２日目のボストン美術館で初めてアメリカの人に知っている単語と地図、身振りを使って道を聞きました。この時言葉が通じなくてもコミュニケーションをとることができて、嬉しくなりました。３日目にマサチューセッツ州のウースター州立大学で院生や学生と交流をしました。相手の言っている内容は何となく理解できましたが、それに対してうまく答えることが出来ませんでした。また、院生の方々がグループセラピーを計画してくれていて、感謝の気持ちでいっぱいでしたが、「Thank you」しか言うことが出来ませんでした。言いたいことが言えない、英語を話すことが出来ない悔しい気持ちになりました。

このような経験から、自分が今後関わっていく失語症の人の気持ちを少し理解できたような気がしました。失語症の人も話したい気持ちがあるのに話すことが出来ず、悔しい思いをしていたり、苛立っていたりするのではないかと思いました。また、コミュニケーションをとるためにはアイコンタクト、表情や身振り、伝えようとする気持ちが大切だと感じました。特に表情は気持ちが表れるもので、相手が笑顔で答えてくれれば自分も笑顔になれます。言葉を使わないコミュニケーションのとり方を学び、楽しく過ごすことが出来ました。

研修旅行の体験でもう1つ感じたことがあります。ウースター州立大学で授業を受けたときのことです。自分をはじめ日本の学生は、先生が授業中に問いかけをしても先生が指名するまで答えないことが多くあります。しかし、アメリカの学生たちは、先生の問いかけに対して手を挙げて意見を言う学生が多かったことが印象的でした。授業の様子を見学し、自分の授業に対する姿勢を見直さなければならないと反省し、今後はアメリカの学生を見習い、意欲的に授業に取り組もうと思いました。

研修旅行では言語や食、日常生活での「異文化」を体験し、コミュニケーションや授業に対する姿勢を学ぶことができました。私は外国の人に対して怖いイメージを持っていましたが、今回の研修旅行で出会った人たちはフレンドリーで明るく、暖かい人たちばかりでした。そのお蔭でとても寛いで、楽しい時間を過ごすことができました。見知らぬ場所に行って気づかされることや学ぶことが多くあり、今後の自分のためにとてもいい体験ができたと思います。

2008年理学療法学科米国研修体験記

理学療法学科　教授　久保 雅義

2008年の米国研修は2／15から2／24のスケジュールで行われました。主な訪問先は学術交流提携を結んでいるカリフォルニア州立大学フレスノ校と、南カリフォルニア大学です。今回の研修では、現在米国で頑張っている日本人の方々と多くの時間を共にすることができ、我々の学生にとって大きなインパクトがあったようです。以下に参加した学生の感想の一部をお送りします。

…アメリカ研修での日々は、刺激的な毎日だった。何よりも横田さんや小林さん、神田さん、藤井さんなどフレズノに住んでいる日本人の皆さんから学んだものが大きい。横田さんからはチャレンジすることの大切さや英語の話せることの魅力、小林さんからはアメリカンスタイルの優しさ、神田さんからは解剖学の大切さや自分の得意技をみつけることの大切さ、藤井さんからは違う国の人とのコミュニケーションの方法。この他に彼らが持っている特有の魅力があった。なぜかメチャクチャかっこいい。本当にかっこいい。英語で先生達と話している姿や、私たちに通訳してくれている時は男のオレが惚れそうになるくらいである。

でもなぜこんなにかっこいいのだろうか？　アメリカに住んでいるから？　英語を話せるから？　確かに英語を話せることは大きな魅力だと感じたし、アメリカに住んでいること自体が魅力的なことである。でも、それだけではこの魅力はおさまらない。彼らは目標を持ちながら日々の生活をすごしているのだ。「オレは将来こういう感じになるぞ！！」、「将来絶対ビッグな男になるぞ」というような意気込みが全員からギンギンと伝わってきた。目標を持って生活している人というのはここまで男の魅力があふれだすのか！！と思った。自分も彼らのような魅力を出したい。…続く（TI）

…今回の研修旅行で嬉しかったのは、横田さんなど外国で頑張っている日本人の方と多くの時間を共にできたことです。実際に授業を受けている姿や、生活している姿を見ることができ、また多くの会話ができて得るものはとても多かったです。横田さんと私が目指しているものは「理学療法士」で名前は同じけれど何か途方もなく違う気がしました。…続く（MN）

…また現地の日本人の方とお話する機会があったのは自分にとってとても印象が強く、皆さんは発現がとても自信に満ち溢れていた気がした。たくさんの人の意見、知識を貪欲に得ようとする気持ち、これが大事で、「何か自分にこれだけは自信があると言えるものを持つ」という言葉の大切さを学んだ。…続く（HS）

…私は、アメリカ観光やディズニーランドを目的として、この研修旅行に参加しましたが、結果としてフレズノで過ごした４日間が一番印象深いものとなりました。フレズノでの先生方、先輩方や学生達との出会いによって自分の視野が大きく広がりました。今までは留学には興味を持ったことがなかったのですが、今回フレズノで勉強をしている先輩方と出会って、自分でいろんな道を切り開くことができるということを知りました。…続く（NK）

『Valuable Experience in Australia Study Tour』

理学療法学科　３年　富樫 沙織

去年の夏にオーストラリア研修に参加させて頂きました。この研修では、多くの貴重な経験をさせて頂きました。毎日多くのことを学ぶことができ、充実した日々を送ることが出来ました。

オーストラリアには８日間滞在しました。最初は、パースに滞在しました。そこでは、“Mulligan concept”の治療技術を学ぶワークショップに参加しました。Toby先生とKim先生に治療技術を教えて頂きました。このような講習会に初めて参加したのでとても緊張しました。教えて頂いた治療技術はとても難しかったです。将来治療として使えるように練習を積み重ねていきたいと思います。そして、理学療法の学会に参加もしました。粟生田先生が英語で研究発表しました。

５日目から、アデレードに移動し滞在しました。亀尾先生の友人でもある、MarkさんやHelenさんにお世話になりました。Markさんがスポーツ理学療法士として所属するオーストラリア・フットボールチームのスポーツクリニック、Helenさんが経営するクリニックや南オーストラリア大学の大学院の授業を見学しました。Butler先生の授業に参加することもできました。先生の授業はジョークも交えて魅力的な授業でした。学生の方々も積極的に質問をして熱心に勉強している様子が伝わってきました。

私は、この研修を終えて２つ決心したことがあります。１つ目は、英語の勉強を今後も続けることです。世界的に有名な理学療法士の方々にお会いできたことはとても刺激になりました。そして、多くの世界中の理学療法士の方々と出会って話したいと思いました。その出会いを大切にするために、もっと英語で会話できるようになりたいです。

２つ目は、将来はスポーツ理学療法士としてスポーツの現場で活躍していきたいという気持ちがさらに強まったことです。南オーストラリア大学の教授のマリー先生は、「スポーツ理学療法士には、『知識・治療技術・情熱』の３つが必要」とおっしゃっていました。このお言葉を肝に銘じ、将来多くのアスリートの障害を治療するために、今後さらに勉学に励みたいと思います。

最後に、この研修にご協力してくださった多くの方々にとても感謝しています。そして、この研修を企画してくださった亀尾先生、一緒に旅をしてくださった粟生田先生・４年生の先輩方お世話になりました。この感謝の気持ちを忘れずに、自分が目指す理学療法士になるために頑張ります。

学友会便り

学友会長を振り返って

平成19年度会長　健康スポーツ学科　４年　玉木 宏昌

皆さん！　ついに卒業の日を迎えましたね！　祝い事とはいえ、どこか淋しく、不安な気持ちを抱きながらこの日を迎えたのは僕だけでしょうか。４年間を共に過ごした仲間との別れ、新たな社会へ旅立つということは楽しいばかりではないですね。

僕にとって学友会が淋しく、不安にさせる存在のひとつであることは間違いのないことです。

学友会に入った理由はとても単純なものでした。

“一緒にいた友達が学友会に入ったから”

そんな軽い気持ちで入った学友会。しかし入ってみると考えていたものよりずっと一生懸命な学友会員の姿がありました。その姿をみて、自分を変えたい、自分が感じた事を後輩達に伝えたいと思いました。これが学友会長になった理由でした。

私が会長になって１番感じた事は仲間の大切さです。学友会からの企画はスポーツ大会、球技大会、伍桃祭運営などありましたが、決して１人でできるものではありません。また年間約1,500万円もの予算から成り立っているように責任のかかる仕事が多いため、時に励まし合い、時にぶつかり合い…。しかしそれは、それぞれがいい思い出を残したい、よりいい企画にしたいと考えていたからだと思います。

僕の仲間は最高でした。秋山先生をはじめ、同期も先輩も後輩もみんな一生懸命で、おもしろくて、頼りになる仲間でした。僕が困っている時は誰かしらが必ず助けてくれました。多くの人と関われた事は僕の財産です。この仲間に出会えて、一緒の時を過ごし、ひとつのことを成し遂げられたことは一生の宝物です。ありがとうございました。

最後に今現在、学友会はどんどん新たな取り組みに努めています。すべてはみなさんと新潟医療福祉大学を盛り上げるために頑張っています。これからもご協力お願いします。

学友会長メッセージ

平成20年度会長　理学療法学科　３年
吉田 聡介

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年度、学友会長として一年間活動してきて学友会は大きな進歩がありました。主に美化キャンペーン、学友会総会、定例会議、会計の仕事です。美化キャンペーンとは、喫煙防止運動の一環で学友会が中心となって教職員や学生で大学敷地内をタバコの吸殻を拾いながら周ります。学友会総会は、各部の部長・会計の人に参加してもらい、なるべく分かりやすく聞きやすいよう心がけて行い、次第に参加してくれる学生も増えてきました。定例会議は、学友会と教職員の方たちと月に一回会議を行い、報告事項や審議事項の話し合いや学生からの要望などを話しました。会計の仕事に関しては、各部の予算案を早めに提出してもらい部費が例年より早く行き渡るようにしました。また仕事を進めているうちにきちんと決まっていない曖昧な部分がたくさん出てきて、その度に学友会三役や学友会が集まり、話し合う場を設けて決めていきました。全てのことは本来やっておかなくてはいけないことばかりで、社会に出たら当たり前のことだったのですが出来ていませんでした。

今まで曖昧だったところを明確にすることにより地盤が出来て、新しい発見があると思います。仕事の幅も広がりもっと学友会は良くなります。そして先輩方から引き継いだ良いものを残しつつ、良い大学にしていきたいです。これからも学友会を温かく見守ってください。また大学の近くまで来られた際にはぜひ足を運んでください。

第8回伍桃祭報告

第８回伍桃祭実行委員長　義肢装具自立支援学科　２年　中川 拓也

今年の伍桃祭のテーマである、「未来」～考えよう、私たちの未来・地球の未来～には、伍桃祭を通じて本学の学生や先生のみならず、地域の方々にも自身の未来、そして地球の未来について、一人ひとりが考えるきっかけになってほしいという願いが込められています。そこでこのテーマをもとにエコを意識した伍桃祭を企画しました。

エコ企画として、今回から新たにエコ容器の使用やフリーマーケット、マイ箸運動等を企画しました。またゴミの分別を前回より細かくし、エコを意識してもらおうと取り組みました。伍桃祭を通じてエコについて少しでも考える機会が一人ひとりに持てたなら、テーマに込めた願いは達成できたのではないかと思います。

前回にはなかった地域交流の一つとして、光晴中学校吹奏楽部とジュニアマーチングバンドとよさかの方たちに演奏をしていただきました。どちらの演奏も素晴らしく、今まで以上に地域の方との交流の機会を持つことができました。また今回初の新しいイベントとして、学科対抗パフォーマンス大会というイベントを企画しました。８学科それぞれのパフォーマンスはどこも素晴らしく、非常に大きな盛り上がりをみせました。多くの来場者の方に楽しんでもらえたと思います。

伍桃祭当日は予想していたよりも多くの方に足を運んでいただき、大成功で終えることができました。４年生の方々にも伍桃祭を盛り上げてもらい、今までの伍桃祭に負けないくらいの素晴らしい内容でした。多くの人に支えられ、伍桃祭に関わった全員でつくり上げた伍桃祭だったと思います。本当にありがとうございました。卒業生の皆様も機会があれば、是非、足を運んでください。

No.5 2009.3.10

強化指定クラブ活動報告

サッカー部

「仲間が求めるサッカー部に成長すること。それこそが大切！」

サッカー部監督（健康スポーツ学科　講師）　秋山 隆之

平成20年12月23日（土）江東区夢の島競技場にて全日本大学サッカー選手権大会（インカレ）新潟医療福祉大学vs.筑波大学の試合終了のホイッスルが響き渡る。試合は前半を０－０で折り返し、後半に入り先制するものの１－２の逆転負け。このホイッスルは同時にサッカー部において始めて輩出する「卒業生」の大学サッカー最後のホイッスルでもあった…

インカレ出場前には、地元メディアに「最速！インカレ出場！」や「創部４年目の快挙！」などと取り上げられたサッカー部も、過去を振り返ってみるとインカレ出場までは決して楽な道のりではなかった。練習場所の問題。練習時間の問題。活動経費の問題…　問題はいくらでもあった。しかしそんな環境だからこそ解決策を見出すことに集中した。部員にはやれる最大限のことを求めて展開した。

私は部員が成長しているのか、そうでないのか正確に把握することが難しいくらい学生と一緒に時間を過ごしている。毎日毎日練習し、その「毎日」の延長上にインカレ出場があったのならば、競技面においては大きく成長したと言えるのかもしれない…　しかし部員にはインカレに出場するよりももっと大切なことがあると投げかけているつもりだ。学生スポーツであっても、競技をする以上勝つことはとても重要だ。プロの世界でもアマチュアの世界でも勝ち負けに注目が集まることは否定できない。問題はすべて勝つことは不可能ということだ。その時に真価が問われるのだ。

サッカー部は４年という節目にインカレ出場を果たし、これを自信に変え成長していかなければならない。それには色々な個性があった上で、同じ大志や同じ考え方を持っている集団になることが課題だ。またその集団をより大きく、より質の高いものにしなければならない。早すぎるインカレ出場は危険でもある。「また出場できるだろう…」や「１回出場したのだから…」など現状に満足することによりそれが成長を妨げる。相手に勝って自信を持つ。これではもう不十分なレベルにきていることをしっかりと捉えなければならない。重要なことは他人の評価であり、サッカー部が仲間からどのように捉えられているのかだ！　そういう意味では、「卒業生」の方がこれから社会という環境に置かれ、一層成長するのかもしれない…卒業おめでとう！

陸上部

陸上部アシスタントコーチ（健康スポーツ学科　助教）　瀧澤 一騎

陸上競技部は健康スポーツ学科が創設された４年前より本格的なトレーニングを開始し、県内はもとより、北信越や全国レベルの大会においても入賞者を出すほどに成長しています。

平成20年度は北信越学生ロードレース大会（兼全日本大学駅伝大会予選会）で団体の部において３位に入ることができました。今年は惜しくも全日本大学駅伝の出場権は逃しましたが、今後に期待できる内容でした。

個人の成績では、北信越学生陸上競技対校選手権では牧良輔（健康スポーツ学科４年）が男子3,000m障害で優勝し、男子5,000mでは３位に入りました。同大会の男子800mでは黒澤悠（健康スポーツ学科１年）が３位に、男子1,500mでは黒澤が６位、女子5,000mでは我妻里美（健康スポーツ学科３年）が５位、男子10,000mでは牛木陽一（健康スポーツ学科１年）が７位にそれぞれ入賞しています。さらに、北信越学生ロードレース大会では牧が優勝し、中澤翔（健康スポーツ学科３年）が11位、牛木が12位という好成績を残しています。

活躍は北信越内に留まらず、日本学生陸上競技対校選手権（全日本インカレ）では牧が男子3,000m障害で５位に入賞するという快挙を成し遂げました。牧は全日本インカレや北信越学生ロードレース大会での活躍から、出雲全日本大学選抜駅伝競走（出雲駅伝）の北信越代表チームに選抜され、１区を任されています。また、2008日本学生陸上競技個人選手権大会には杉坂侑磨（健康スポーツ学科２年）が3,000m障害に出場しており、闘いの場は全国レベルに移りつつあります。

なお、陸上競技部は駅伝チームのみの活動ではなく、短距離や跳躍、投擲の選手達も多く、共に切磋琢磨しています。特に投擲選手の活躍はめざましく、女子ハンマー投げの安田遥香（理学療法学科２年）、男子円盤投げの土田祥太（健康スポーツ学科１年）、女子やり投げの小林梨奈（社会福祉学科１年）の３選手が全日本インカレに出場しました。

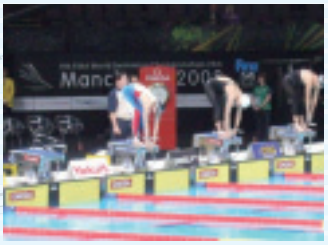
選手達は「新潟医療福祉大学」の名前を背負って日々練習に励んでいます。これからも陸上競技部への暖かいご声援をよろしくお願い致します。

水泳部

水泳部監督（健康スポーツ学科　准教授）　下山 好充

水泳部は日本水泳連盟の関東学生支部に所属し、創部４年目の20年度は女子は強豪校ぞろいの１部にて優勝種目こそ無かったものの、全員が力を合わせ、着実に得点を重ね、総合で２位を獲得することができました。また、男子は昨年の３部から今年２部に昇格したばかりでしたが、上級生だけでなく新入生たちの若い戦力も大きな活躍を見せてくれ、総合で３位を獲得しました。着実に総合力が付いてきたと実感しております。個人では、澤田涼が日本選手権やインカレなど全日本クラスの大会で入賞を果たし、2008年イギリスで開催された「短水路世界選手権」に日本代表として選出される快挙を成し遂げるなど、ステップアップを遂げることができました。今年度も「認めあい、支えあい、競いあうチーム」「多くの人から応援されるチーム」という２つのスローガンを掲げ、日々精進していきたいと思います。

日々の活動報告を以下で紹介していますのでご覧ください。
http://nuhw.blog-niigata.net/swim/



バスケ部

バスケットボール部監督（健康スポーツ学科　准教授）　高沢 文隆

本学男女バスケットボール部は、大学強化クラブに指定され（H17年度）本格的に強化を始めた当初から、全国および県内のバスケットボールファン、関係者に注目されてきました。

今年度は、北信越学生バスケットボール春季リーグ戦（長野県）で女子は１部リーグ初参戦しましたが、春季１部リーグ８連覇中の信州大を初戦で破り、続いて新潟大、経営大、北陸学院大に圧倒的な強さで勝利し、４戦全勝で１部リーグ初参戦、初優勝しました。男子は３部Aで圧倒的な強さで４戦全勝優勝し２部へ昇格しました。また、男子は甲信越学生バスケットボール選手権（６月）で、男子北信越春季１部リーグ優勝校の信州大を決勝で破り初優勝しました。女子は西日本学生バスケットボール選手権（６月）で、西日本の強豪チームを破り２年連続ベスト８に進出しました。

北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選で女子は全勝で２年連続全勝優勝、３年連続３回目のインカレ出場、男子は、激戦、接戦を制して全勝、念願の初優勝インカレ初出場を果たしました。ついに強化４年目にして男女そろってインカレ出場という快挙を成し遂げました。女子は北信越総合バスケットボール選手権（11月）でも初優勝し、お正月の全日本総合バスケットボール選手権（オールジャパン）に北信越代表として出場しました。

今年度も男女とも県内外から強力な新戦力となる新入生が入学し、意識の高い練習と練習方法もさらにレベルアップしました。その練習に耐え、努力した結果が男女そろってのインカレ出場になったと思います。今後はインカレでの上位進出を目標に日々精進していきたいと思っています。最後に男女バスケットボール部のために保護者の皆様方、大学関係者、卒業生の方々から多くのご声援とご協力を頂き、この場を借りて御礼申し上げます。

○強化クラブ　2008年主な成績

サッカー部

総理大臣杯全日本サッカートーナメント北信越大会	準優勝	
新潟県大学・高専連盟春季リーグ	優　勝	
HFL北信越フットボールリーグ２部	３位	
北信越大学サッカーリーグ	優　勝	第57回全日本大学サッカー選手権大会出場
プレナスなでしこリーグ2008 ディビジョン１	７位	女子部員（アルビレックス新潟レディース所属）

陸上部

日本学生陸上競技対抗選手権大会	５位	牧 良輔（４年）
北信越学生ロードレース大会兼全日本駅伝大会予選会	団体：３位	
北信越学生ロードレース大会兼全日本駅伝大会予選会	個人：優勝	牧 良輔（４年）
北信越学生ロードレース大会兼全日本駅伝大会予選会	個人：11位	中澤 翔（３年）
北信越学生ロードレース大会兼全日本駅伝大会予選会	個人：12位	牛木陽一（１年）
出雲全日本大学選抜駅伝競走	北信越選抜	選出（牧 良輔）

水泳部

短水路世界選手権	日本代表選出	澤田 涼
短水路世界選手権　800m自由形	11位	澤田 涼
短水路世界選手権　400mメドレーリレー	８位	日本代表チーム(澤田 涼)
関東学生選手権　女子１部	総合２位	
関東学生選手権　男子２部	総合３位	
国民体育大会（新潟県代表）200mリレー	８位	駒方 進

バスケットボール部

男子	北信越学生春季リーグ３部	優勝	（２部昇格）
	甲信越学生バスケットボール選手権大会	優勝	（初優勝）
	新潟県バスケットボール選手権大会兼全日本総合県予選会	３位	
	北信越学生バスケットボール選手権大会	優勝	（初優勝）
女子	北信越学生春季リーグ１部	優勝	（初優勝）
	西日本学生バスケットボール選手権大会	ベスト８	
	新潟県バスケットボール選手権大会兼全日本総合県予選会	優勝	
	北信越総合選手権大会	優勝	（初優勝）
	北信越学生バスケットボール選手権大会	優勝	（２年連続）

No.5 2009.3.10

ボランティア団体活動報告

学生ボランティアセンター

社会福祉学科　3年　武藤 祥

　このたびはご卒業おめでとうございます。
春からは、それぞれの新しい生活が始まると思います。社会人として、自分で責任を負う事もあると思いますが失敗を恐れず積極的に色々な事にチャレンジされていくことと思います。
　学生ボランティアセンターとは、ボランティア依頼先とボランティアをしたい学生とを結びつける活動、いわゆるボランティアコーディネートを学生が主体となり行っている団体です。学生ボランティアのあり方を確立することを理念とし、地域・国内への貢献、学生の人間的成長の機会の増加、ボランティア活動の質の向上を目的として日々活動しています。具体的な活動は、①大学の教職員、学生を通してボランティアの依頼を受ける、②メールや掲示により情報を提供し、ボランティアしたい学生を募集する、③学生とボランティア依頼先との連絡調整を行い、必要であれば学内でオリエンテーションを行う、④ボランティアの実行、⑤活動記録の作成、会議での活動報告、という流れに沿い行います。学生ボランティアセンターでは、学生を募集する際に、ボランティアに関心のある学生に効率よくボランティアを紹介できるようにメルマガ会員制度を設けています。会員に登録してもらう事により随時ボランティアを紹介できるようにしています。
　また、ボランティアコーディネートの活動以外に、新潟県学生ボランティアネットワークAkyakyaの活動に参加しています。活動の一環として今年は、全国ボランティアフェスティバルへのボランティアとしての参加、新潟県学生ボランティアサミットへスタッフとして参加しています。
　今後は、学生ボランティアセンターのスタッフ・会員の増員のための広報活動、円滑な運営システム、ボランティア先との密な連絡を取ることにより、多くの学生がボランティアに関心を持ち積極的に活動できる環境を作っていきたいと思います。
　皆様の新たなる門出を心より祝福すると共に更なる発展を願って卒業のお祝いとさせていただきます。

レクア・コム部

理学療法学科　3年　関 恵理子

　第５期生の皆さんご卒業おめでとうございます。
　レクア．コム部は設立８年目を迎え、今年も幅広く活動を行ってきました。レクアは地域の方や障がいのある方などさまざまな方々と交流を図っています。そこで今年度行った多くの活動の中から２つの活動を報告させていただきたいと思います。今年度は、全国ボランティアフェスティバルが新潟で行われ、レクアからも参加することができました。レクアとして活動紹介ブースへの出展、新潟県学生ボランティアネットワークAkyakyaとしてカエルキャラバンという新しい形の体験型ワークショップにスタッフとして参加しました。ボランティアフェスティバルを通して、様々なボランティア団体との交流や、実際にスタッフとしてブースの運営に関わることができ、とても貴重な体験をすることができました。
　また、新潟県学生ボランティアサミットも５回目の開催となりました。今年は講師の方をお招きして、「コミュニケーション力」に着目し、人間同士の関係づくりのきっかけや良好なコミュニケーションについてレクリエーションを通して学びました。
　これからもレクア．コム部では、地域に根ざした活動を積極的に行っていきたいと思います。また、地域の様々な人や学校、団体等とのつながりを大切にしていきたいと思います。
　卒業生の皆さんは今後、保健医療福祉の現場を中心にさまざまなところで活躍されますが、本学で学んだこと、考えたことそして感じたことを十分に発揮されて、これからの社会人生活と人生を堂々と歩んでください。

学生kids

理学療法学科　2年　赤坂 達郎

　この度、ご卒業を迎えた第5期生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。先輩方にはkidsの活動だけでなく日々の大学生活でも、本当にお世話になりました。
　先輩方が学生kidsに入部して色々なことを学び、普段の大学生活では体験できないようなことをkidsの活動で体験できたのだと、昨年の四送会で感じました。私も２年後に心からkidsに入部してよかったと思えるように、あと２年の大学生活を過ごしていきたいと思います。
　今年のkidsの活動は例年の活動とは一変し、毎月の交流会が年４回の交流会、交流会がない月は茶話会という活動内容になりネットワーク会員と触れ合う機会が少なくなってしまい、少し寂しい気分にさせてしまったかもしれません。また、会員の子供たちも大きくなり、成人式を迎えた会員もいますし、簡単に『会員の子供たち』と呼ぶことに対して少し抵抗を感じる時もあります。学生kidsの部員に関しては今の２年生から部員が急増し、学生が活動の中で十分に会員と触れ合うことが出来ているのか、コミュニケーションはしっかり取れているのかなど、いくつか解決しなければいけない問題点があることは確かです。
　このように、先輩方が入部し４年間の年月が経ちますが、学生kidsはもしかすると“change=変化・転換”の時期を迎えているのかもしれません。しかし、私は変化していくことは悪いことではないと思います。むしろ、学生kidsのような大きな組織が変わっていき、周りの状態に合わせることなく今まで通りの活動を続けていくことの方が、kidsのプラスにはならないと思います。ですが、変わっていく状態の中で変わらないもの、変えてはいけないもの、守っていかなければならないものがあると思います。それは学生kidsに対する愛“kids愛”です。会員が大きくなっても、部員が多くなっても、触れ合う機会が少なくなっても、部員、会員の一人ひとりがそれぞれの“kids愛”を持ち活動していけば自然と学生kidsはより大きな組織になっていくと思います。
　先輩方が教えてくれたkidsに対する思い、愛情というものをしっかりと受け止め、これから先輩方がいつkidsの活動に顔を出してもらっても恥ずかしくない組織、そして笑いに溢れた組織であるように頑張っていきたいと思います。
　いつでもkids・サロンに遊びに来て下さい！　本当にご卒業おめでとうございます。

各学科からのお知らせ

理学療法学科

理学療法学科　教授　大西 秀明

今年度の理学療法学関係の学会・イベントについてのお知らせです。今年は５月28～30日の３日間、東京国際フォーラムにて第44回日本理学療法学術大会が開催されます。今年は東京ということもあり、7,000名を超える参加者がいるのではないかと推察します。一般演題(研究発表)だけでなく、特別講演や教育講演、シンポジウム、セミナー等が沢山企画されており大変勉強になると思います。年に一度の最も大きな学会であり、卒業生も数多く発表していますので是非ご参加下さい。この他、第44回日本理学療法士協会全国研修会（三重、10月２・３日）、日本体力医学会（新潟、朱鷺メッセ、９月18～20日）、日本臨床神経生理学会（北九州、11月12～14日）、臨床スポーツ医学会（神戸、11月14～15日）など沢山の関連学会が開催されます。職場の協力が得られれば、年に１回は学会という場で刺激を受けることをお勧めします。皆様の健康と益々のご活躍を期待しています。

健康スポーツ学科

健康スポーツ学科　准教授　山﨑 史恵

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。健康スポーツ学科は、今年度初めての卒業生を社会に送り出すこととなりました。大学院への進学、企業への就職、教員や講師としての教育活動、健康増進の支援など、本学での４年間の学びを通じて、道は違えども大きく羽ばたいてくれることを願っています。今後も健康・スポーツに興味や関心を持ち続けてください。そして、学会参加や研究室訪問、試合応援などを通じて、教員や後輩との交流を続けてほしいと思います。平成21年度には新潟国体があり、本学の選手も多数出場します。また、９月18日（金）～20日（日）には朱鷺メッセで第64回日本体力医学会大会も開催されます。みなさんと再会できることを楽しみにしています。

看護学科

看護学科　教授　塚本 康子

看護学科は学科設立４年目を迎え、21年度にはじめて卒業生が社会に巣立っていきます。先輩達のいない中、第１期生は学内あるいは臨床で授業や実習に励んでいます。大学院の看護学分野は２年目となり、修士課程での成果が学会などで発表される段となってきました。看護の学会は現在多数ありますが、21年度は日本看護協会の通常総会と全国職能別集会が朱鷺メッセで開催されます。（平成21年５月18～20日）

作業療法学科

作業療法学科　講師　貝渕 正人

卒業生の諸君、ご卒業おめでとうございます。これから皆さんが、社会で活躍し大いに羽ばたくことを確信しております。

思えば、皆さんが入学された４年前、まだ、医療とはどんなものか、福祉とはどんなものかわからずに、基礎的な講義から実践まで熱心に取り組まれておりました。そして今、堂々と、保健・医療・福祉の分野に入ろうとするその勇姿は頼もしく思います。

ここ最近では、皆さんの国家試験対策や、国家試験の手続きなどで走り回っておりましたが、無事、全員合格を願いながら、新入生を迎える準備をしています。

臨床実習指導者会議での学生面談、皆さんも覚えていらっしゃることでしょう。ついこの前、６期生を対象におこないました。

また、先日の国家試験の壮行会、皆さんが作業療法学科の伝統を引き継ぎ、さらに下級生が強化していきました。これも皆さんの学校生活の充実していることの表れだと思います。

５期生が国家試験の勉強で使っていた教室も、講義ができるように片付けて準備をしています。皆さんが残されていかれた湯沸しポットなどは大事に使わせていただきます。義肢装具室、ADL室、評価室、どれも大変でした。試験勉強の大変さがここでも表れますね。講義や実験がしやすい教室に変容いたします。

学科長より、それぞれの研究室の整理整頓の命が下りまして、多くの作業療法学科教員が苦戦しております。大山学科長のもと、一致団結して、作業療法教育をしていきます。

社会福祉学科

社会福祉学科　講師　渡邉 敏文

卒業生の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。今回は「第9回全国障害者スポーツ大会トキめき新潟大会」に関する情報です。この大会は、全国から約5,500人が参加する国内最大級の障害者スポーツの祭典で、今年は10月10日～10月12日に新潟県で、個人・団体競技を合わせ13種目の正式競技と３種目のオープン競技が行われます。新潟医療福祉大学は昨年３月に、新潟県から選手団サポートボランティア養成校委嘱状の交付を受けました。現在、本大学では「サポートボランティア事務局」を立ち上げ、ボランティアの育成・派遣に向け取り組んでいます。新潟県の「トキめき新潟国体・トキめき新潟大会実行委員会事務局」ではボランティアを募集しております。是非参加してみませんか。

問い合わせ先：
「トキめき新潟国体・トキめき新潟大会実行委員会事務局」
TEL 025-280-5625　FAX 025-280-5276

言語聴覚学科

言語聴覚学科　講師　山口 富一

卒業生の皆様お元気でお過ごしのことと思います。学会発表や院内発表などでもご活躍のことと拝察します。昨年度は第32回日本神経心理学会で４名の発表があり、松山で開かれた第32回日本高次脳機能障害学会では６名が発表し小栗涼子さんと本田智子さんが優秀ポスター発表賞を受賞しました。また、新潟医療福祉学会でも卒業生の発表があり、特別講演講師の宮本晃先生より関心を示してもらいました。

今年は第35回日本コミュニケーション障害学会学術講演会が５月30、31日に新潟県長岡市のハイブ長岡で開催されます。会長は長岡中央綜合病院リハビリテーション科言語聴覚士の目黒文先生です。教育講演、シンポジウム、グループ訓練の演題発表などがあります。学会では卒業生の皆さんと会えるよい機会と思います。是非参加してください。同窓生の皆様のますますのご活躍を期待しています。

健康栄養学科

健康栄養学科　教授　斎藤 トシ子

卒業後、管理栄養士・栄養士のプロとして、仕事をこなしていくためには、まずは所在している県の栄養士会に入会することが基本です。栄養士会に入会すると、全国あるいは県全体の管理栄養士・栄養士の動向、職域ごと（行政栄養士、学校栄養士、病院栄養士、教育・研究栄養士）の研究会や講演会等の情報を入手することができます。さらに、落ち着いて仕事ができるようになったら、関連の学会を調べ、積極的に参加することをお勧めします。例えば管理栄養士・栄養士に身近な学会には、新潟栄養食生活学会（例年12月上旬：新潟市）、日本栄養改善学会（21年９月２～４日：札幌市）、日本公衆衛生学会（21年10月21～23日：奈良市）、日本栄養食糧学会（５月20～22日：長崎市）、日本病態栄養学会（例年１月上旬）、日本糖尿病学会（例年５月下旬）、日本体力医学会（21年９月18～20日：新潟市）、日本調理科学会（21年８月28～29日：京都府）等があり、全国から多くの管理栄養士が参加しています。詳細についてはホームページで検索できますので、情報を自らの手で入手してください。エビデンスに基づいた業務を遂行するためにも学会で発表したり報告書を作成することは重要ですね。５期生の皆さんのパワーを社会で思う存分発揮してください。

義肢装具自立支援学科①

義肢装具自立支援学科　准教授　阿部 薫

義肢装具自立支援学科の教員が、役員・委員などをつとめ、学科とも深い関係がある下記2学会を紹介します。

第16回日本義肢装具士協会学術大会
テーマ：「フィールドの拡大」
日　程：2009年7月18（土）、19日（日）
会　場：長崎ブリックホール
大会長：二宮誠（株式会社長崎かなえ）

第25回日本義肢装具学会学術大会
テーマ：「ハードウェアとソフトウェアの融合」
日　程：2009年10月31日（土）、11月1日（日）
会　場：神戸国際展示場（ポートアイランド）
大会長：陳隆明（兵庫県立総合リハビリテーションセンター）

義肢装具自立支援学科②

「大学院新設分野『義肢装具自立支援学分野』に興味ありませんか？」

義肢装具自立支援学科　講師　大塚 博

義肢装具自立支援学科は開設から丸２年目が経ち、２年後の平成23年春に栄えある第１期生が巣立ちます。本学科の卒業生は皆様の後輩であるとともに、義肢装具士の資格を持ち、福祉用具をユーザーに適合させる専門家です。医療福祉分野で皆様とともに活動する同士ですので、新潟医療福祉大の先輩として時に叱咤激励、時に見守っていただきたいと思います。

話はがらりと変ります。

皆様、福祉用具の利用者様から、要望や不満を訴えられることはありませんか？　また福祉用具に対して疑問を感じたり、“こんなものがあったらいいのに”と考えたりすることはありませんか？　そのような方に耳寄りなお知らせです。本年４月から義肢装具自立支援学科は同名の大学院修士課程である「義肢装具自立支援学分野」をスタートさせます。

片麻痺者の装具、切断者の義足・義手、靴、車いす、杖、歩行器などなど、皆様は日常業務で様々な福祉用具に関わっていることでしょう。福祉用具に対して素朴な疑問やアイデアを持っている人に最適な大学院、「義肢装具自立支援学分野」ができました。皆様の素朴な疑問やアイデアは“研究の種”です。この種をそのままにせず、大学院で研究することで“発芽”させることをお勧めします。研究は自信の理解を深めるだけでなく、その成果は、同じような疑問や悩みを抱えている利用者様や専門職にとっても、きっと有益なものになるでしょう。優れたQOLサポーターである皆様は、さらに磨きをかけて下さい。「義肢装具自立支援学分野」に興味を持った方は、大学までお問い合わせください。お待ちしております。

平成20年度の主な行事

○平成20年４月
第８回入学式、４月４日に新潟市の朱鷺メッセで挙行されました。３学部８学科、658名の新大学生が大きな期待に胸を膨らませ新たなスタートをきりました。

○平成20年６月
ハバロフクス極東総合医科大学からValentinovich看護学部長をはじめとする３名の教員を招き国際交流事業を行ないました。本学教員や看護学生との交流、環境と健康についてシンポジウムの開催など、さまざまな事業を通して相互の理解を深めました。

○平成20年７月～
オープンキャンパス2008開催。未来のQOLサポーターを目指す高校生らが、3回の開催に1,600名以上来校し、熱いまなざしで学科の説明や体験実習を受けたり、キャンパスを見学しました。

○平成20年８月
「第23回リハ工学カンファレンス」が高橋榮明学長を大会長迎え、大鍋寿一教授を実行委員長に、朱鷺メッセで開催されました。また、「朱鷺の里・空飛ぶ車いす修理技術国際交流会」も同時開催され、県外・外国からの参加者も多数お迎えし、盛大に行なわれました。

○平成20年10月
第８回大学祭「伍桃祭」が２日間にわたり開催されました。「未来」をテーマに学生や地域の皆様に多数ご参加いただきました。シンガーソングライターの「より子。」さんの講演会＆LIVEも花を添えました。

○平成20年10月
第８回の新潟医療福祉学会学術大会が本学にて開催されました。多くの学術発表が発表され、学内外に本学の研究成果示がされました。また同日には新潟医療福祉学会総会、同窓会総会も開催されました。

新潟県の食材をふんだんに使った「健康体験型」のお弁当を開発

【健康栄養学科】村山伸子教授ら研究グループ協力による、「うまさぎっしり新潟の味弁当」が販売されました。

平成20年11月28日～12月15日の期間、新潟県内のセブン－イレブン全店舗（平成20年10月末現在337店）にて「うまさぎっしり新潟の味弁当（豚ロース味噌焼）」が販売されました。これは新潟県と株式会社セブン－イレブン・ジャパンが締結した「地域活性化包括連携協定」に基づき開催された「うまさぎっしり新潟フェア第２弾」の目玉商品として販売された健康体験型のお弁当で、商品開発には本学 健康科学部 健康栄養学科の村山伸子教授ら研究グループが協力し商品化されたものです。

村山教授は、勤労世代の健康問題が注目される中、職場で利用されることの多い中食（弁当）を通して健康づくりに貢献できないものかと、平成18年に「弁当革命」プロジェクトをスタート。勤労世代への事前調査を通じて「ヘルシーなお弁当＝おいしくない」との意見が多いことを受け、大学院生の長谷川美代さん（管理栄養士）と共に「おいしい、健康、地元産」に徹底的にこだわった「健康体験型弁当」として36種類のメニューを開発しました。

また、これら弁当は新潟市役所の職員の方々を対象に、３ヶ月間、週に３回食べ続けていただき、健康づくりへの効果の検証も行われ、この様子はいくつかのメディアでも取り上げられ大きな話題となりました。

その後、食品業界の方をはじめ多くの方から市販化したいとの声を頂いた研究グループは、給食や弁当業者向けに、弁当のレシピ集として活用してほしいと、平成20年９月１日に「弁当革命－味にうるさい新潟人が大満足した『健康体験型』お弁当」を販売しました。

今回、新潟県内のセブン－イレブン全店舗にて販売された「うまさぎっしり新潟の味弁当（豚ロース味噌焼）」の開発にあたっては、こうした弁当革命プロジェクトでの研究成果をもとに、量と素材のバランスを厚生労働省「食事バランスガイド」に沿ったものとしながら、食材には新潟県産コシヒカリ、越後味噌で漬け込んだ豚ロース肉、新潟県産ほうれん草を使用するなど、おいしさを求めて食材選びにもこだわり、多くの方々に大変好評でした。次に販売するお弁当は、本学健康栄養学科学生が、セブン－イレブンと一緒に企画中です。どうぞ、ご期待ください。

No.5 2009.3.10

同窓会ホームページ開設のお知らせ

http://nuhw-dosokai.jp/

新潟医療福祉大学同窓会が設立して今年で５年目となり、多くの方々のご支援・ご協力のお蔭をもちまして、同窓会サイトを平成21年３月に開設いたしました。
同窓会では、新潟医療福祉大学卒業生に対する支援と卒業生が喜んで参加してくれる同窓会サイトの運営を目標に、そして、サイトを通じて相互の交流やコミュニケーションを大切にしていきたいと考えています。

イメージ写真

サイトの主なコンテンツには…

1．母校の最新情報
新潟医療福祉大学の最近のトピックスやニュースを掲載。母校の近況をお知らせします。

2．卒業生は今！
様々な職場で活躍している卒業生の今を追います。同窓生から同窓生を紹介してもらうリレー形式で行いますので、同窓生からお声がけがありましたら、ご協力を宜しくお願いします。

3．こころに届くいい話
何気ない日々の暮らしで、心に響いたことや感じた様々なことについて、綴るページです。あなたの心に届いた良いお話を、是非お聞かせください。

4．コミュニケーション広場
同窓生のコミュニケーション広場です。職場の事、おもしろい出来事、講演会、展示会、本の紹介など同窓生が役立つ情報ならなんでもＯＫです。同窓生からの情報発信をお待ちしております。

5．トピックス＆ニュース
同窓会に関連する最新ニュースや情報を掲載！

6．伍桃・伍桃だより
同窓会広報誌を通じて、母校からの情報発信です。

などなど……

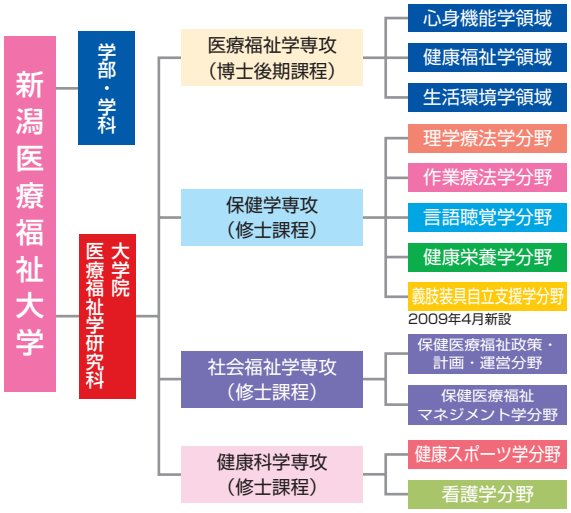
ご意見・お問合せ・投稿に関してはdosokai@nuhw.ac.jp まで

母校の大学院で学んでみませんか！

卒業生のみなさん、お元気ですか？　早いもので本学も第４期の卒業生を送り出し、新潟県内外で多数の卒業生が職場でご活躍されていることと思います。

さて、本学大学院では、保健・医療・福祉分野においてさらに専門知識を高めたい方、指導者･研究者を目指す方、職場においてリーダーシップを発揮したいというみなさんを応援します。特に社会人の方には広く門戸を広げており、大学院生の中には働きながら通学する卒業生も多数在籍しています。現場経験を基にさらなるスキルアップを図ってみませんか？

新潟医療福祉大学院は学びたい意欲を持った皆さんをお待ちしています。



皆さんが入学する場合は、入学金が半額になります

1、平日の授業は18時10分からスタートです。また土曜日にも授業を開講しています。
2、長期履修制度を利用すると、4年をかけてゆっくり修了することも可能です。
3、各種奨学金を用意し、修学のバックアップをします。
　●特別研究奨学金（年間15万円～20万円を支給　※本学卒業生を対象）
　●修学援助奨学金（2年次に15万円～20万円を支給）
　●日本学生支援機構奨学金
　（無利子奨学金月額8万8千円貸与、有利子奨学金月額5～15万円貸与）
　※いずれも定員・選考あり
4、特別研究・特殊研究（修士論文・博士論文）については、Webカメラ及びPC使用による e-ラーニング形式での遠隔指導が可能！（指導教員によって異なります）

新潟医療福祉大学　入試事務室
〒950-3198　新潟市北区島見町1398番地
TEL 025-257-4459　FAX 025-257-4456
E-mail：nyuusi@nuhw.ac.jp　URL：http://www.nuhw.ac.jp/

編集後記 Hennsyu-kouki

同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。これまでの伍桃ニュースレターでは母校の近況、会員の皆様のご活躍ぶりを紹介してきましたが、今回はボリュームアップして学内情報・教員の活躍など内容が盛りだくさんになっており、今後の同窓会の活動も活発になっていきます。今後この伍桃ニースレターをよりよくしていくために、会員の皆様の遠慮ないご意見・ご要望をお待ちしております。なお、いただいた原稿は原文のまま使用させていただきましたことをご了承ください。

（2期生・山口正樹）

新潟医療福祉大学同窓会事務局
●新潟市北区島見町1398番地
●メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp
●電話番号　025-257-4620